

会議開催結果概要書

1 審議会等の名称	令和5年度岸和田市生涯学習審議会(第2回)
2 開催日時	令和5年10月3日(火) 午前10時～午前11時40分
3 開催場所	岸和田市立公民館 4階 多目的ホール
4 公開・非公開の別	(公開)・非公開)
5 非公開理由 (非公開の場合のみ)	
6 出席者	委員13名、事務局14名、
7 傍聴人数 (公開の場合のみ)	0名
8 議題及び審議概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 案件(1)岸和田市生涯学習実施計画の進捗状況(令和4年度分)について 3. その他(1)岸和田市生涯学習支援チームの活動報告について 4. 閉会
9 その他	

生涯学習審議会 会議録

内容承認	佐藤会長： 承認 中村副会長： 承認
会 議 名	令和5年度岸和田市生涯学習審議会(第2回)
日 時	令和5年10月3日(火) 午前10時～11時40分
場 所	岸和田市立公民館 4階 多目的ホール
出席委員	佐藤会長、中村副会長、池内委員、白井委員、中田委員、草山委員、渡辺委員、杉原委員、原委員、池田委員、松谷委員、楠本委員 上月委員 以上13名
欠席委員	池宮委員 吉田委員 以上2名
事 務 局	牟田生涯学習部長 【生涯学習課】 井出生涯学習課長、加柴主幹、小田主幹、畑部担当長、橋本担当員、山本会計年度任用職員 【スポーツ振興課】 河内スポーツ振興課長、西川主幹 【郷土文化課】 田中郷土文化課長、平田参事、山岡担当長 【図書館】 濱崎図書館長、藤田主幹 以上14名
傍聴人数	0名
次 第	1. 開会 2. 案件(1) 岸和田市生涯学習実施計画の進捗状況(令和4年度分)について 3. その他(1) 岸和田市生涯学習支援チームの活動報告について 4. 閉会
資 料	【配付資料】 別紙1 岸和田市生涯学習支援チームの活動報告について 別紙2 きしわだマッチング・マーケット チラシ 別紙3 きしわだマッチング・マーケット プログラム 【持参資料】 ・岸和田市生涯学習実施計画 令和4年度振り返りシート集約表 ・令和4年度新規事業一覧(追加分) ・岸和田市生涯学習基本方針(緑色の冊子) ・岸和田市生涯学習実施計画(ピンク色の冊子)

●審議事項

(1) 岸和田市生涯学習実施計画の進捗状況(令和4年度分)について

令和3年度から9年度までを計画期間としている「生涯学習実施計画」を基に「令和4年度振り返りシート集約表」を作成しているため、各事業の進捗状況を検証する。

各事業の概要については生涯学習実施計画の6ページ以降の各課事業シートで確認してもらおう。ただし、新規事業については掲載していないので、事前送付資料「令和4年度新規事業一覧（追加分）」を確認してもらおう。

一番左側の事業名の隣の列に令和3年度末時点での今後の方向性と、数値目標がある場合はその実績数値を、その隣の列には令和4年度の実施状況と課題、一番右端には令和4年度末時点での今後の方向性を示している。今後の方向性について、令和3年度末と変更が無い場合は「変更なし」という表記になっている。

●質疑概要

【副会長】 振り返りシート集約表は4課に分けて記載しているので、生涯学習課、スポーツ振興課、郷土文化課、図書館の順番で検証を行う。生涯学習課の振り返りシート集約表について意見・質問はないか。

【委員】 生涯学習課は社会教育関係団体への補助金について、来年度からの補助金適正化に向けて、各団体と協議を行っていると思うが、その協議の進捗や各団体が納得されているのか教えていただきたい。

【事務局】 推進担当では、岸和田市障害者学級しゃぼんだまと岸和田障害児のためのサマースクール実行委員会に補助金を交付している。現在、令和6年度からの補助金適正化に向けて、全庁的に補助金の見直しを行っており、運営費補助から事業費補助に移行する。事業に関わる費用について各団体と協議を進めている2団体については、2回の協議を終えたところで、一定の方向性は理解いただいた。今後、令和6年度に向けて要綱を作成し、実施していきたいと考えている。

【委員】 各団体にはそれぞれの特色がある。この2団体については自主財源を持っていない団体で、事業を始める前に補助金を概算払いされている団体になる。また、一般的には運営に関わることでも、事業として認められるのではないかということもある。例えば、総会に関わる資料代などは事業費にはあたらないと指摘をされるが、障害者にとって総会は自分達で物事を決定する場であり、取り組みの一環である。こういったことは弾力的に考えないと、そのものの本質を見失ってしまうことになると思う。それぞれの団体と話していただき、それぞれの取り組み方について話を重ねて適正化を行っていただきたい。

【副会長】 団体と協議を重ねていく上で、本質を追求していった事業費との兼ね合いを考えるとということで、事務局よろしいか。

【事務局】 団体とは、2回ほど協議させていただいた中で、総会の経費は学級の活動を組み込んで行うと聞いているので、補助金の対象になるという答えはすでにしてはいる。

【委員】 項目8番の「障害者学習支援事業」について、参加者が非常に少なかったと書いてある。実施するにあたって、当事者の皆さんが何を求めているのか、もう少し調べた方がいいのでは

ないかと思う。どういう調べ方をしたのか、また今後の方針についても聞きたい。

【事務局】 障害者の学習支援は、平成 29 年度に文部科学省から、障害者が学校を卒業した後に学ぶ機会が少なくなったり、人との交流もなくなっていく現状を踏まえて、学びの機会を行政として提供していく方向性が示されている。本市も令和 4 年度から実施するにあたって、すでに長年実績がある貝塚市の状況を視察した。貝塚市では、目の不自由な方対象の講座や、物を作ったり料理をする教室があり、しっかりとした土台がある中で、参加者も一定いるという状況だった。どのようなニーズがあるのかも分からない中で、まずは物を作る講座を取り入れてみようと考え、フラワーアレンジメント講座を開催した。周知方法が上手くいかず参加者が 2 名だったが、その参加者にも今後どのようなことをしたいかを聞いている。今年度は、9 月にピザ作りの体験講座を実施したところ定員に達し、参加者はとても喜んでいただけた。その中でもアンケートをとり、またこのような講座を続けて行ってほしいという要望も聞いている。今年度もう 1 回開催する予定もある。来年度以降の内容については事務局だけではなく、障害者の方の声も聞きながら考えていきたい。

【委員】 最近はボッチャが流行っている。いろんな団体が活動されていたり、いろんな障害があるので、そういう方たちのいろんなアイデアや声、また、私たちも障害者の取り組みをずっとしてきたので、一緒に話し合いながらできればと思う。

【副会長】 いろんな方の声を聞いて、進めていっていただけたらと思う。他に質問はあるか。

【委員】 前回、公民館の再編についての話があったと思うが、その後の進捗はどうなっているのか、地域の方たちと話し合いが進んでいるのか、など聞きたい。

【事務局】 公民館の再編について、8 月末に庁内で本案となり、その後、市議会議員へ説明した。また、計画にかかる 5 つの地域の運営協議会の委員長や地域の方々に話をさせていただいた。9 月 29 日に市のホームページに掲載している状況で、今後は 11 月下旬から 12 月にかけて、市立公民館、山直市民センター、春木市民センターの 3 箇所で市民説明会を開催する予定である。

【委員】 公民館活動や貸館についても、コロナの影響が落ち着き、令和 4 年から全体的に数字が上がっていると思う。ただ、コロナが少し落ちついても、いろんな点に配慮したところもあると思う。完全に落ちついたらもっと楽しい公民館まつりを企画してもらい、たくさんの人に来てもらえるようにお願いしたい。

項目 15 番の「学び舎プログラム学び舎ネットワーク事業」のダンスパフォーマンスは、akane さんにプロデュースしていただき、久米田高校や和泉高校がダンスパフォーマンスを行ったとあるが、もう少し大きい会場で開催したらよかったのではと思った。あとライブビューイングというのは映像で見るということか。

【事務局】 はい。市立公民館が会場で各市民センターで映像を流した。

- 【委員】 このライブビューイングの人数も全部足して 108 人か。
- 【事務局】 はい。ライブビューイングの申し込みはかなり少なく、ほとんどが市立公民館の会場の人数になる。
- 【委員】 もう少し会場は大きいところにしてたくさんの人に見てもらえればと思った。せっかく良い企画をしているのに、少し会場が狭いかなと思う。たくさんの人に来ることが想定できていたら、会場をマドカホールにするなど工夫していただければと思う。
- 【事務局】 ネットワーク事業は、公民館を知ってもらう目的の事業なので、公民館以外を会場にすることはできないという事情があった。
- 【事務局】 今回は中高生を市立公民館に呼び込むことが目的だった。職業を通じて、自分の好きなことを仕事にしようということで、岸和田市 100 周年に合わせて行った事業になる。公民館をよく知ってもらいたいという思いから、会場は狭かったが、市立公民館で開催した。
- 【副会長】 委員ご指摘の通り、公民館はいい取り組みをされている。今後とも公民館まつりやこのようなパフォーマンス等で楽しむことが出来ることを企画し、たくさんの方が公民館に来ていただけたらよいと思う。他にあるか。
- 【委員】 項目 9 番の「公民館・青少年会館貸館事業の利用団体数」について、令和 3 年度は 9,753 団体で、令和 4 年度は 1,716 団体だが、これは間違いではないのか。また、令和 4 年の実施状況に Web アンケートと書いてあるが、公民館の利用者は恐らく 65 歳以上のシニアの方が多いと思う。回答件数が 41 件ということもあり、紙のアンケートはなぜされないのか。
- 【事務局】 利用団体数については、令和 3 年度は延べ利用団体数で、令和 4 年度は、実数になり実利用団体数となるので、これだけの差が出ている。今後は、延べではなく実利用団体数で集計しようと考えている。
- Web アンケートについては、利用者のニーズを把握するために短期間で行った。今後は Web だけでなく、紙でも一緒に行いたいと思っている。アンケートについては、公民館を利用されていない方を対象に行ったので、Web で QR コードを読みとる方法を取り、なぜ公民館を利用されていないのかを聞いた。
- 【委員】 そのアンケートに回答されたのは若い方か。
- 【事務局】 若い方が多かった。今後は、高齢の方を含め、全世代で利用されていない方に意見を聞いていきたいと考えている。
- 【副会長】 公民館に来られてない方に、紙でのアンケートを取る方法はあるのか。
- 【委員】 文化協会では、展示会に来た人にアンケートを書いてもらい、帰りに回収している。
- 【副会長】 いろんな方法はあると思うが、今回はアンケートの期間が短かったことが原因だと思う。
- 【委員】 アンケートには批判的な意見もあると思うが、そういう声もまた団体の宝となる。批判の声を聞き改善を積み重ねることで、批判の声も少なくなると思う。

- 【副会長】 いろんな声を聞いて、発展していくものもあると思うので、たくさんの声を吸い上げていただきたい。
- 【会 長】 諸事情で遅れ、ご迷惑をおかけした。項目9番の「公民館・青少年会館貸館事業」の令和4年度の実施状況と課題で営利利用について見直しを行うとあるが、公民館の運営方針では社会教育法によると営利利用や講師謝礼による貸館の可否については、基本的に営利でやっただけではいけないのは公民館の名前を使って行うことだけで、特に公民館内での営利活動の有無については、公平に区別無く取り扱い、公民館が営利事業に関わることを全面的に禁止するものではないと、文部科学省地域学習推進課より発出の平成30年12月21日事務連絡「社会教育法23条の解釈の周知について」に書いてある。また、貸館条件の明確化と受益者負担の公平性というところで、社会教育法にのっとって考えると、受益者負担の考え方自体についてどうなのかと思うが、いかがなものか。
- 【事務局】 公民館では、講師謝礼金額に応じた貸館可否判断をしている。具体的に1回2万円の上限を設けて、教室を開けるようにしており、その金額以下にしてほしいと伝えている。ただ2万円が安いのか高いのかということもあると思うので、今後、それが適正かどうかについては、随時見直していきたいと考えている。
- 【委 員】 公民館の貸館の予約についてだが、4、5年前だと団体の代表者である会長の名前や生年月日を記入するだけで借りることができた。ところが、システムが導入され、今は会長本人に来館してもらう必要があると言われ、非常に不便である。登録したID番号が3ヵ月から6ヵ月で消えて、また他の公民館でも使えない。予約ができてでも使用料は窓口で支払いに行かなくてはならなくて不便を感じる。
- 【事務局】 昨年2月より貸館の予約システムを導入した。公民館以外の施設なども使えるシステムになっている。利用にあたり団体の登録をするときに、団体の代表者の本人確認が必要となり来館いただいている。各館それぞれの貸館の条件があるので、そちらも一緒に説明させていただいている。
- 最初にIDとパスワードを決めていただくことになるが、IDは特に3ヶ月等で消えることがないので、この会議の後にでも改めてお話しさせていただきたい。貸館の使用料に関しては、来館いただき、お支払いいただくことになっており、今後はキャッシュレス決済なども視野に入れて考えていきたい。
- 【副会長】 他に質問はないか。無ければ、進行は佐藤会長と交代する。
- 【会 長】 次にスポーツ振興課の振り返りシート集約表について意見はないか。
- 【委 員】 市民プールについて、中央公園のように広いプールだと安全確保が難しく、障害のある子どもや大人たちが安心して使うことができないので、市民プールのような小さいプールがあることはすごく助かっている。小さなお子さんも利用できる今木プールや八木北のプールも設

備がだんだん老朽化していつて使えなくなっていくと思う。今後これらのプールはどうなっていくのか聞かせていただきたい。私たちの団体の活動で利用しており、必要な事業だと思っているので、できれば継続していただきたい。

【事務局】 12の市民プールがあるが、いずれも老朽化が著しくなっている。今年度は6プールのみ開場できた。幼児の方や障害のある方が利用しやすい今木プールは今年度は開場が叶わず、八木北プールは開場できた。今後については、本当に老朽化が進んでいるので、民間施設の利用も踏まえて、来年度もどのように維持していくかということも合わせて、プール事業の実施を検討しているところである。

【委員】 是非、残していただきたい。

【委員】 心技館について、令和2年度の再編基本方針では、老朽化したところは使える施設に集約していくと書かれていた。心技館が令和6年3月で廃止という話を聞いたが、今後どうなっていくのか、分かる範囲で教えていただきたい。

【事務局】 市民道場心技館については、項目19番に記載している。令和4年度の課題として、設備の老朽化、そして耐震性がないということから、他施設への機能移転を進めると記載している。

今後の方向は、令和5年度末をもって供用を廃止する方向で、検討を進めているところである。耐震性がなく、小さな子どもさんも利用する施設なので、安全を一番に考えている。

【委員】 心技館は耐震性がなく、安全性を考慮していることは分かるが、他の体育施設と違って昔から市民道場として由緒あるところで、城の中にある建物になるので少し残念に思う。

【委員】 スポーツ振興課としては、市民の皆さんのご利用については総合体育館、中学校の剣道場や柔道場などの学校体育施設を利用いただくことで、今の活動が担保できることを確認したので、機能を移転するという視点で考えている。

【会長】 文化財的に保存ということではなく、解体する方向で間違いないか。

【事務局】 二の丸公園には、江戸時代に心技館というものがなく、特に文化財といった価値があるものと言えない。供用の廃止については、何より安全を一番に考えているためであり、引き続き使うということは難しいと考えている。

【委員】 機能移転を行い、安全を考慮していることは我々も理解できるが、この心技館に対する思いがある。単に古くなって機能移転したということではなく、この建物は特別だという考えは私だけでなく他にもいると思うので、令和5年度末の機能移転までの間に、そこは十分に皆さんに説明した方がいいと思う。

【会長】 次に、郷土文化課の振り返りシート集約表について意見、質問はあるか。

【委員】 項目12番の「野外観察会実施事業」のボランティアについて補償ができるように位置付けの明確化を図るということで、昨年も少し話をしたが、今後、公民館や図書館、スポーツ関

連行事を運営するにあたって積極的・主体的にサポートするボランティアの皆さんが手伝いをしないと維持ができなくなると思う。今中心になって活動しているボランティアの皆さんが新しいボランティアの方を見つけてくる構造になっている。私たちもボランティア団体でコロナ禍を経て主体的に活動していたボランティアの数が減ってしまったので、この後どう増やしていくのかということが、深刻な問題となっている。

私たちの団体でボランティアの中心になっている方も、市外から来られている。他市から多くのボランティアが来られて、それでなんとか運営できている状態になっている。障害者のカヌー体験では、府外の近隣県から来てもらい支えてもらっているのも、何らかの形でボランティアの方たちに報いることができないかと。ボランティアの皆さんが代償を求めているということではないが、何かできないのかなということ、今後どのように市が考えて進めていくのか一つの指標になるので、ぜひお聞きしたい。

【事務局】 前年度から大きく何か明確に改善できたかということ、現状ではそこまで至っていない状況であり、自然資料館では、行事や出前授業、イベントの際にボランティアの方に手伝ってもらっている。きしわだ自然友の会も、団体のボランティアの人たちも高齢化している。出前授業などであれば、出来る限り、先方に交通費の実費を請け負ってもらうなどはお願いしている。ボランティアの方の支援については、他の博物館の例を参考にしながら、改善を図っていきたいと思う。

【委員】 会長、副会長は若い世代の学生さんたちとも接する機会が多いと思う。私たちも、ボランティアの方が高齢化している中で、若い人たちがどうやったら一緒に仲間になってくれるのか、先ほどの公民館の利用率の問題にも大きく関わってくると思う。ぜひとも、これは一つのテーマとして、議論をしていただきたいと思う。チラシを置くだけでボランティアは増えなくて、今やっておかないと、いやもう遅いぐらいかと思う。これからの社会をどう築いていくかということに大きく関わることなので、ぜひともお願いしたい。

【会長】 今の学生は昔の学生より、お金がなく時間がないということは皆さんもご存知だと思う。年配の方のボランティアの考え方は奉仕活動になるが、今のボランティアは別の概念で、ボランティアは自分で志願して来る人もいれば、全く関心を持たない人もいるので、単なる動員にならないようにしなくてはいけないと思う。

【委員】 振り返りシートの事業を見ると、いろんな事業がある。なので、郷土文化課だけが悩むことではないと思う。生涯学習部の事業に関わるボランティア活動をされる方をバックアップするために、これは生涯学習部の課題として前向きに検討してもらいたい。

【事務局】 生涯学習部ではいろんな事業があるので、事業に協力していただける方の支援については検討していきたい。

【委員】 項目1番目の「濱田青陵賞事業」について、確か、平成27年に濱田青陵賞を受賞した千田

嘉博さんを最近よくテレビのお城の番組で見かける。これは観光課に関係するかもしれないが、岸和田城のPRと郷土文化課の活動のPRを兼ねて、千田さんに来ていただいて岸和田城を紹介してもらうような企画があれば、もっと岸和田城も郷土文化課の活動も市民の方に知ってもらえると思うので、可能であればお願いしたい。

【事務局】 千田先生に関しては、専門が城の観光ではなく、城郭考古学ということで評価されている。郷土文化課の行事ではないが、去年は尼崎城・岸和田城・大阪城に千田先生と城郭のインスタグラマーで有名なKAORIさんが一緒に見て紹介するイベントを実施している。千田先生を呼ぶとなると予算的に厳しく、岸和田市文化財保護審議会委員で城郭の権威である中井均先生をお呼びして岸和田城をPRする企画を観光振興協会と一緒に今現在考えている。

【会 長】 最後に、図書館の振り返りシート集約表について、意見、質問等はあるか。

【委 員】 項目7番の「図書館まつり開催事業」について聞きたい。図書館まつりは、今月の29日（日）に開催する予定で、半年以上前から準備をしている。市制70周年の記念として図書館まつりが第1回として始まり、今年度で25回目の開催で、4分の1世紀を過ぎた。図書館まつり実行委員の私たちも相当力を入れて頑張っている。3、4年ほど前から、普段図書館を利用しない新しい、若い世代が参加してくれ、今までにない個性のある図書館まつりを開催している。目標数値として入館者数1,000人程度を目指すとあり、実績は令和3年度の入館者数が550人、令和4年度は625人と書いているが、この数字は何を根拠にした数字となるのか。

【事務局】 図書館の入口に入館者数を数えるカウンターがあり、当日の入館者数を数えた数値となっている。

【委 員】 図書館まつりの実行委員としてこの10数年関わっている中で、目分量で1,000人は参加していると思っているので、人数の把握は、確かなものにしていきたいと思っている。それともう一つブックフェスタ開催事業と融合に向けてと書いているが、ブックフェスタと図書館まつりの参加者の数を合わせると、1,000人から2,000人ぐらいになると思っているので、もっと市民の方々に参画いただけるように努力して頑張っていきたい。

【事務局】 実行委員の方がいろんな企画の立案をされたり、会議を何回も開いていることを承知しているので、図書館としてもできるところについては後押ししたいと思っている。

【委 員】 3点質問したい。一つ目は項目9番の「障害者サービス事業」について。著作権の問題などで悩まれていることと思うが、活動される方が高齢になってきており、その人たちをサポートしたり、そういう人がもっと増えるようなことを一緒に考えてほしいということが1点目になる。

次に障害者に対する支援について。例えば、図書館だと車いすの方や低身長の方は、本棚の

上の方の棚は見えない。図書館また博物館を利用、見学しやすくすることは、工夫できることもあると思うのでぜひ積極的にやっていただきたい。

最後に、建て替えの問題がもうそろそろ出てくると思う。建物が老朽化しているので、場所や設計などについてできるだけ早く話ができる場を設けるべきだと思う。設計がある程度決まってから市民の方に説明することが多いと思うが、それではもう遅くて、例えば、東岸和田駅がそうで、出来上がってしまった後に使いにくいことがたくさん出てきて、後からではどうしようもないことがいっぱいある。市役所の庁舎建て替えも同じで、本当に障害者や高齢者の方の利便性が高いのかなど、交通の安全面についてなども図書館で活動されているボランティアの皆さんも含めて、そういった声を反映できるようにしてみてもどうか。まちづくりに関わる問題なので、いろんな人の意見を取り入れることのできる場をまず作っていただきたい。あと、進捗についてもお聞きしたい。

【事務局】 新しい図書館について、昨年度に「図書館のあり方」という、基本的な考え方をまとめたものを3月に出した。しかし、図書館の職員が図書館をこうしたいという思いに留まっており、今後、庁内全体の中で意見をいただき、いろんな協議をしなくてはならない。今年7月から福祉部長や子ども家庭応援部長も入った検討委員会を設置し協議を始めている。協議を進めているところではあるが、まだお示しできる段階ではない。今年度は協議を深め、できれば来年度に一定の構想を作れたらと考えている。いろんな方が図書館には来られることを踏まえて構想案を考えたい。

【委員】 私も「図書館のあり方」という冊子は読んだが、その中に、「建て替え」という言葉は入っていなかった。また、今の図書館を利用するにあたって不便な点についても記載がなかった。一番の問題点としては、エレベーターがないことだと思う。岸和田市は高齢化率が高いので、エレベーターをつけずに利用するというのは苦痛になっている。市民サービスを考えた上で、建て替えをできるだけ前向きに検討していただきたい。15年ほど図書館でボランティアとして関わってきたが、エレベーターをつけることをずっとお願いしてきた。それなのに「図書館のあり方」にその内容が書かれていないというのは、何かが抜けている感じがするので、よろしく願います。

【事務局】 引き続き、使いやすい図書館づくりを検討していく。

【会長】 今までの協議を知らない上での意見だが、いくつかの図書館の建て替えでは、コンサルに丸投げするというような話をよく聞くが、そうではない方がいいということも多くのところで行われている。建設計画策定の段階から、図書館の問題を有志の方々と市の事務局の方も入って、勉強会を重ねてから設計を依頼する方がいいとされている。手間はかかるが、その方が納得度も高く、その後の活用度も高いと言われている。将来の図書館を考える話し合いの場を継続的にやっていただきたい。

- 【事務局】 図書館は、いろんな方が利用される施設になり、市民の方の意見を幅広く聞きたいと考えている。コンサルとだけ話をすればいいという風には考えてはおらず、何らかの形で市民の方と協議できる機会を見つけ、ご意見を聞きながら進めていけたらと考えている。
- 【委員】 項目14番の「ブックスタート事業」について、配付率99パーセントに達したということで数値的には素晴らしい数字だと思っている。4ヵ月健診時に配付いただいているということだが、1パーセントの赤ちゃんに届かない理由を教えてください。
- 【事務局】 健診の時にその場で、絵本と交換しているのですが、受診者の数と渡した数を出せば配付率は出せる。健診時に子どもさんを抱えながら、おむつなどたくさんの荷物を持っているため、今日は持って帰れないとおっしゃる方もいる。ただ、その機会を逃がすと、わざわざまた行って、交換しようという方は少ないと思う。4ヵ月健診での配付というのも、比較的健診の項目が少ないと聞いており、これ以上の渡す機会というのは見つけにくいと考えるので、どんな形であれ受け取っていただけるよう、引き続き検討したい。
- 【委員】 せっかくなので、赤ちゃん全員に絵本を配付してほしいと思った。この事業の目的が、その後の読書習慣につながることを願ってであるということ、また、読み聞かせ読書手帳の配付も開始したということで、かなり努力をされていると思う。
- せっかくなので、素晴らしい事業を努力して行っているのに、「岸和田市の本を読まない子どもの割合」が全国平均や大阪府の平均より高いことを知り、残念に思う。どのようにしたら子どもたちが育っていく過程で本を読むようになるかということも私たちも一緒に考えていかないといけないとつくづく思う。
- 【事務局】 不読率の問題については、今でも学校教育課や子育て施設課、健康推進課の方々と協議をしているが、なかなか改善されない。できるだけ子どもの時に読書習慣は身につけていただく必要はあると考える。
- 現況を知ることが一番大事なのではないかと思い、7月、8月に、いくつかの学校にお邪魔して校長先生や学校司書の方に図書館がどのようにすれば子どもの読書の支援につながるのかを聞き、意見をいくつかあげていただいた。今後の意見を基に、施策としてやっていければと考えている。引き続き、学校現場に行き、何が課題なのかは調査・検討していきたい。
- 【会長】 コメントになるが、学校はものすごく忙しいので、放課後子ども教室や子ども食堂、いわゆる社会教育団体で子どもが集まるようなところとも連携をした方がいいと思う。
- 【事務局】 放課後子ども教室とはできていないが、チビッコホーム（学童保育）とは連携しており、それぞれのチビッコホームに月に1回程度、本の入れ替えを行っている。
- 【委員】 障害に対する配慮の点で、特にスポーツや文化については、かなりクローズアップされてきている。本市で言うと、手話言語条例も策定されて久しいので、その文言も含めて、事業の

中でももう少し取り込んでやっているということを出していただきたい。障害がある方は施設が使えないとか、使いにくいとか、よく分からないということが現状としてある。

スポーツと文化については、ものすごく関心を持っている方が多いので、庁内で連携し、横串をさしていただき、課にとどまらず調整会議などいろんな形で発信していただけたらと思う。

【会 長】 これですべて4課全て検証したが、今後も生涯学習実施計画の実施状況の検証は、この審議会で行うこととなるので、よろしくお願ひしたい。

その他

(1) 岸和田市生涯学習支援チームの活動報告について

別紙1、別紙2、別紙3に基づき事務局から説明。

【会 長】 報告事項になるが、何か質問はあるか。

【委 員】 支援チームの委員もしているが、生涯学習支援チームの会議には、いろんな方が来ている。現在自然資料館からも来ているが、スポーツ振興課や図書館の方も、会議に来たほうの方が、より豊かなものになると思うので、検討していただきたい。

【委 員】 社会教育、社会体育の関わり方は、同じ方向を向いていると思うので、今後検討していきたい。

【会 長】 多くの団体が「きしわだ マッチング・マーケット」に集まったので、マッチング・マーケットの場だけでなく、横串をさしてもらえればと思う。

【事務局】 9月末に会議を行い、事業を実施することは決まったが、前回と同じにならないようにバージョンアップすることが今年度の課題である。内容については今後検討していくため、現時点では未定である。

令和5年度 第2回岸和田市生涯学習審議会

と き 令和5年10月3日（火）午前10時から

ところ 市立公民館 4階 多目的ホール

《 次 第 》

1 開 会

2 案件

(1) 岸和田市生涯学習実施計画の進捗状況（令和4年度分）について

3 その他

(1) 岸和田市生涯学習支援チームの活動報告について

4 閉会

【配付資料】

別紙1 岸和田市生涯学習支援チームの活動報告について

別紙2 きしわだ マッチング・マーケット チラシ

別紙3 きしわだ マッチング・マーケット プログラム

【お持ちいただいている資料】

- ・岸和田市生涯学習実施計画 令和4年度振り返りシート集約表
- ・令和4年度新規事業一覧（追加分）
- ・岸和田市生涯学習基本方針（緑色の冊子）
- ・岸和田市生涯学習実施計画（ピンク色の冊子）

岸和田市生涯学習支援チームの活動報告について

【組織の概要】

岸和田市生涯学習支援チームは、現行の生涯学習計画にあたる「岸和田市生涯学習基本方針」に基づき設置したものです。

「生涯学習基本方針」は、第 2 次生涯学習計画の後継として平成 30 年に策定されました。

基本方針の基盤となる考え方は、「学習の自由と多様性が、岸和田の人・コミュニティを創り、まちの希望を紡ぎだしく市民自治都市を形成する」というものです。

そのために以下の 4 つの柱が掲げられています。

- ① 「学び + 実践 + ネットワーキング」の活性化を目指します
- ② インクルーシブ（誰でも出入りできる排除しない）・コミュニティづくりに力を入れます
- ③ 社会教育支援チーム（仮称）を充実します
- ④ フラッグシップ事業を創成します

3 つ目の柱となる「社会教育支援チーム」は、学びと実践のつながりがさらに他のコミュニティとつながり続けるために、インクルーシブ・コミュニティづくりの整備を企画する必要な組織とされています。

【活動内容】

生涯学習基本方針に則り、インクルーシブ・コミュニティづくりに向けて「学び+実践+ネットワーク」が活性化する方策について検討を行い、市民・住民の多様な学習と地域の活性化が重なる活動である「フラッグシップ事業（旗ふり事業）」を実施します。

【活動状況について】

令和 4 年度

4 月の第 1 回会議で、フラッグシップ事業について議論を開始し、テーマを「地域と子ども」に決定しました。

その後の会議では、支援チームが地域にコミュニティを創成するための中間支援であるという役割から何ができるか議論し、多くの意見を出し合いました。

人材の活用や他市の取組事例などから、子どもを支援している方や子どもたちの声を聴きたいという意見が出され、有志委員による放課後子ども教室見学や、市内で子どもたちを支援している・応援できる団体の方に支援チーム会議にお越しいただき、意見や課題を伺いました。

実際に子どもたちと関わっている方々のお話もヒントになり、支援者や協力者などが一堂に会して交流する場を設けることを決定しました（フラッグシップ事業「きしわだ マッチング・マーケット」）。

1 月以降は参加団体の推薦、依頼、内容やスケジュール等の調整を行い、3 月 18 日（土）午後 1 時～4 時まで南海浪切ホール 特別会議室において、「きしわだ マッチング・マーケット」を開催しました。

開催概要については、別紙2と別紙3のチラシとプログラムをご覧ください。

開催目的としましては、市内の子どもたちに関わる団体が沢山あっても、実はそれぞれの団体のことを知らないという現状もあることから、子どもたちを支援する団体と子どもたちを応援できる団体が一堂に会し、「お互いを知る」「交流する」「自分たちの活動につなげる」こととしました。参加団体は26団体で84名、一般参加者75名でした。

具体的な内容は、参加団体毎のブースでの交流、希望団体の前方でのPR、子どもたちも楽しめる体験コーナー、団体PRカードの掲示としました。

参加団体からのアンケートは好評で、交流ができた、連携したい団体が見つかった等の意見を多くいただくことができました。

3月末の会議では、この事業の振り返りと次年度に向けた方向性について協議しました。

令和5年度

新たな委員の任期（令和5～6年度）により、委員5名が入れ替わり、他委員は継続でスタートしました。

6月より第1回会議を開催し、前年度の取組について説明後、今年度のテーマについて協議しました。協議の結果、昨年度に引き続き「地域と子ども」に決定しましたので、「きしわだ マatching・マーケット」参加団体へ事業実施3ヶ月経過後アンケートを行い、回答内容を参考に今年度の事業を検討しました。多くの団体から「きしわだ マatching・マーケット」の再度の開催を希望するご意見をいただいたことから、アンケートの意見を踏まえ、今年度は更に内容をリニューアルして開催することに決定しました。

今後、具体的な内容について協議していく予定です。

ゆるく気楽に
つながろう!

きしわた マッチング・マーケット

～未来を担う子どもたちの支援者の皆さん、
応援できる皆さん あつまれ～

入 場 無 料

子どもたちを支援している団体、
子どもたちを応援できる団体や個人
があつまり、

-  お互いを知ること
 -  交流すること
 -  各々の活動につなげること
- を目的に、楽しく開催します♪

3月18日(土)
13時～16時南海浪切ホール
4F 特別会議室

裏面もチェック

子どもも楽しめる
企画がたくさん!
千リメンモンスター
も来るよ★子どもたちの支援に関心のある方、活動に興味のある方、子どもと一緒に気軽に見に来てね♪
(申込みはいりません)ポッチャという
スポーツも体験
できるよ♥

子どもたちの支援団体、子どもたちを応援できる団体、個人の方も募集中!!

3月10日(金)までに 下記までお問合せください主 催：岸和田市教育委員会 岸和田市生涯学習支援チーム
問合せ：生涯学習部 生涯学習課

TEL 072-423-9615 FAX 072-423-3011

お気軽に
お問合せください

参加団体（予定）

放課後子ども教室、公民館おやこ文庫、子ども食堂

こども会育成連絡協議会、学校支援地域本部、きしわだ自然友の会
岸和田市新緑会、NPO法人 神於山保全くらぶ、日本折紙協会 ほか

※ 他にも多数参加予定です

千リメンモンスター体験



千リメンモンスター
見つかるかな？



写真は
イメージ
です

折紙体験



子どもたちが楽しめる
企画もあります
各団体の活動を知って
楽しく交流しましょう

ポッチャ体験



♪ 会場案内 ♪

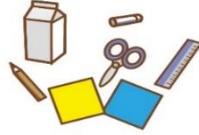
南海浪切ホール
(岸和田市立浪切ホール)
596-0014 岸和田市港緑町1-1

駐車場 終日無料

みんな
来てね！



体験コーナーのご案内



・ボッチャ【ファインプラザ大阪】

目標球と呼ばれる白いボールに、赤・青のボールをいかに近づけるかを競う誰でも楽しむことのできるスポーツです

・チリメンモンスターをさがそう【きしわだ自然友の会】

大阪の海で取れたチリメンジャコのなかから色々な生物をさがしてみよう。さがしたあとはアクアリウムづくりもできるよ

・砂利の中から宝石をさがそう【きしわだ自然友の会】

きしわだ自然友の会の鉱物マスター 数田さんが、いろいろな宝石をもってきて、みんなにさがしてもらうよ

・折紙【日本折紙協会】

折紙の基本である折り鶴を美しく折る自信がつくレクチャーになる体験コーナーにしたいと思います

・えんぴつ作り【神於山保全くらぶ】

里山の保全活動で出た竹、木の枝、木の実などを活用してみましよう。捨てるものがおもしろいものにかわります。森のえんぴつや“フー太郎”（アメリカふうの実の細工）をつくりまます

・みにまむ竹笛【なよたけの会】

岸和田ゆめみヶ丘で採取したメダケを材料に【みにまむ竹笛】を作りました。小さなお子さんも横笛を吹けるようになります！

・工作【放課後子ども教室 てんてん天神山】

エコ作品☆牛乳パックでつくる(どれだけ跳ぶかな?)ひっくりかえると、(ブンブン♪ならしてみよう!)ぶんぶんこまを作ります
どちらも絵をかいてもらいます



岸和田市フラッグシップ事業

きしわだ マッチング・マーケット

～未来を担う子どもたちの支援者の皆さん、
応援できる皆さん あつまれ～

開催にあたって

令和3年11月に生涯学習推進本部から移行し発足した生涯学習支援チームは、「地域と子ども」をテーマに様々な議論を重ねてきました。

現在の社会は、子どもを健全に育成するという環境が地域の中で薄れてきているように思います。

子どもたちの支援を進んで取り組まれている団体や、子どもたちを応援できる団体などが市内にもたくさんありますが、お互いに詳しく「知ること」や「交流する」機会は少ないと思います。

地域で子どもを育成する芽を大切に、育てていくための第1歩として、この事業を企画しました。

多くの方々がこの事業を通して少しでも得ることができれば幸いです。そして子どもたちの未来のために力を結集しましょう!!

令和5年3月18日 岸和田市教育委員会
生涯学習支援チーム

タイムスケジュール

- 13:00 開場
- 13:05 開会あいさつ
- 13:25 開催趣旨説明

【前方PR タイム】※ 時間は前後することがありますので、
あらかじめご了承ください。

- 13:30 放課後子ども教室（修斉）
- 13:40 放課後子ども教室（八木っ子クラブ）
- 13:50 公民館おやこ文庫（光陽・新条・城北・光明）
- 14:00 岸和田市学校支援地域本部
- 14:10 リビング活動 ほっとりんく
- 14:20 フリースクール ココまな
- 14:30 NPO法人 ここからKit
- 14:40 岸和田市新緑会
- 14:50 NPO法人 神於山保全くらぶ
- 15:00 日本折紙協会
- 15:10 『未来の宝』“応援”プロジェクト
- 15:20 子ども食堂（NPO法人 いいねきーたん実行委員会）
- 15:30 なよたけの会（篠笛）

★ 自由にブースをまわって交流しましょう!



- 15:50 閉会あいさつ

一般参加の方



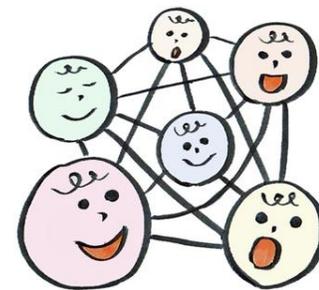
アンケートにご協力ください



参加団体の方

参加団体一覧

- 放課後子ども教室（修斉・天神山・城北・八木・光明・山直北）
- 公民館おやこ文庫（光陽・新条・城北・光明）
- 岸和田市こども会育成連絡協議会
- 岸和田市学校支援地域本部
- 子ども食堂（NPO法人 いいねきーたん実行委員会、ほっとハウスやまだい）
- リビング活動 ほっとりんく
- フリースクール ココまな
- NPO法人 ここからKit
- 家庭教育学級
- NPO法人 岸和田市スポーツ協会
- 岸和田市文化協会
- きしわだ自然友の会
- 岸和田市新緑会
- NPO法人 神於山保全くらぶ
- 日本折紙協会
- いっしょにね!!
- 『未来の宝』“応援”プロジェクト
- なよたけの会（篠笛）
- NPO法人 ドゥールース
- 友垣



各団体の自己紹介カードもご覧ください

岸和田市生涯学習実施計画 令和4年度 振り返りシート集約表【生涯学習課】

事業名		【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値	令和4年度の実施状況と課題	今後の方向性（変更の場合）
1	社会教育支援チーム推進事業	基本方針に基づき、生涯学習支援チームメンバーからの提案等により、地域にコミュニティを創成する支援等を行うフラッグシップ事業実施の検討を行う。	令和3年11月に発足した「生涯学習支援チーム」は、令和4年4月から本格的に議論を開始した。議論テーマを「地域と子ども」とし、各々の意見を出し合う場となった。しかし、フラッグシップ事業に向けて具体策が見えてこない中で、放課後子ども教室の見学や子どもたちを支援する団体の方々に会議にお越しいただき現状をお聞きし、助言等をいただくことで、一定の方向性が見え、【2.フラッグシップ事業】の開催が決定した。なお、支援チーム会議は9回開催し、近畿地区社会教育研究大会（奈良）に2名の委員を派遣した。	変更なし
2	フラッグシップ事業	より多くの市民・住民が、身近な課題について気楽に学習でき、かつインクルーシブ・コミュニティづくりの重要性が認知されるような企画の開催を目指す。	令和5年3月18日に南海浪切ホール特別会議室において、「きしわだ マッチング・マーケット」を開催した。子どもたちを支援する団体と子どもたちの支援を応援（協力）できる団体が一堂に会し、各々の活動を知る、交流する、活動に繋げることを目的とした。社会教育として、人と人をつなげ、結び、コミュニティを創成するという意味では一定の成果があり、開催後のアンケートも良い感想を沢山いただいた。これを機に次へのステップとして、新たな取組を検討していく予定である。	変更なし
3	生涯学習推進委員会事業	委員会の今後のあり方について、庁内の生涯学習関連事業を整理し、連携して調整、推進を行う体制を検討する。	現設置規程の内容を見直す必要があると判断したが、令和4年度中に具体的な協議に至っていない。	変更なし
4	生涯学習推進研修会事業	生涯学習について、広く周知、認識を持てるよう、実施に向け再構築を行う。	当該研修会のあり方を整理する必要があるが、生涯学習の推進施策に関わる内容であることから、推進委員会のあり方と共に協議をしていく予定である。	変更なし
5	出前講座事業	今後も、各課にメニューを依頼し、引き続き事業を継続していく。市民の学習ニーズに沿った時事的なもの、社会的関心のあるもの等を取り入れていけるよう検討する。	昨年度よりも多くの申込みがあり、申込件数35件、延べ897人に受講していただいた。半数以上の団体が健康・福祉と防災関係を受講しており、興味関心の高さがうかがえる。今後さらに幅広く市民に利用してもらえるよう出前講座メニューの配架先を増やしていく。	変更なし
6	いきいき学びのプラン発行事業	今後も、広報紙という重要な周知ツールを活かし、生涯学習の事業情報や話題、講座情報の提供を継続していく。	年度内に3回（9月・1月・3月）発行した。部内各課に案を募集し、生涯学習課、スポーツ振興課の記事を掲載、また、岸城中学校夜間学級も取材した。幅広く生涯学習の情報を提供するためには、生涯学習部各課との連携はもちろん、今後も広く情報収集をしていきたい。	変更なし
7	社会教育主事講習参加事業	今後も、社会教育推進のために、研修者の派遣（年間1人以上）を継続していく。	令和4年度は大阪教育大学で実施され1名派遣した。全国的にも社会教育主事が減少傾向にあるなか、今後も本市としての社会教育の質の向上のため、継続して派遣し主事資格取得者を増やす必要がある。	変更なし
	研修派遣者数	1名	研修派遣者数	
8	障害者学習支援事業	どのように支援していくのか、国の動向を見ながら、調査・研究し、関連部署の協力を得て、事業の実施を検討する。	令和4年度に初めて障害者を対象とした講座「クリスマスのフラワーアレンジメントを作ってみよう」を開催した。参加者は2名と少なかったが、内容については大変満足いただけた。課題として、講座開催の周知方法が広報やホームページ、チラシの配架のみだったので、知ってもらえる機会が少なかったと感じている。開催を早めに決定し、多くの障害者の方に講座の開催について知ってもらえるよう努める必要がある。	引き続き、国の動向を見ながら、内容について調査・研究し、周知方法など関連部署の協力を得て、事業を実施する。1回だけでなく、複数回開催できるよう検討していく。

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値	令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
9	公民館・青少年会館 貸館事業	<p>公民館等利用者に対し、アンケート調査を実施し、利用ニーズや講座受講希望内容等現状把握を行う。</p> <p>利用目的が限定されている貸室の多用途での貸し出しについて検討していく。</p> <p>また、現在は5人以上の団体での利用としているが、部屋を限定し、少人数でも利用可能な貸室条件を検討していく。</p> <p>年間で延べ利用者数400,000人程度、利用団体数1,200団体、平均稼働率30%を目指す。</p>	<p>利用コマ数から算出した稼働率は4.1%上昇しており、新型コロナウイルス感染症流行の影響により大幅に減少していた時点から一定の回復が見られた。</p> <p>また、公民館及び青少年会館の利用ニーズや現状を図るためWEBアンケートを実施したが、回答件数は41件に留まった。傾向を計るには十分な回答数とは言えないものの、講座テーマや開催日程の希望内容については今後の参考とし、稼働率の低い部屋の利用目的とすり合わせた上で講座企画を行う等、稼働率向上に向けた方策を検討していきたい。</p> <p>また、営利利用の場合の講師謝礼金額に応じた貸館可否判断について、他市町村等を参考にしつつを見直しを行い、貸館条件の明確化と受益者負担の公平性の維持を図ることが今後の課題である。</p>		変更なし
	延べ利用者数	290,549人	延べ利用者数	363,531人	
	延べ利用団体数	9,753団体	利用団体数	1,716団体	
	平均稼働率	18.2%	平均稼働率	22.3%	
10	学級講座等運営事業 (定期講座)	<p>定期講座開設要綱に沿って開設していく。複数回を同じメンバーで受講するため、講座終了後に活動団体への移行や、新たなコミュニティを結成するきっかけとなるよう、講座内容を検討していく。</p> <p>年間で講座開催数100講座、在籍者数2,000人程度、活動団体への移行3団体を目指す。</p>	<p>定期講座開設要綱に基づき定期講座を実施した。開講数については令和3年度より1講座増加した。開講には10名必要であるため、講座によっては開講に至らない場合がある。講座により応募人数に偏りがあるため、応募の少ない講座については対象年齢や内容などを検討していく必要がある。</p>		変更なし
	開催数	87回	開催数	88回	
	在籍者数	1,099人	在籍者数	1,289人	
	活動団体への移行件数	0件	活動団体への移行件数	3件	
11	学級講座等運営事業 (短期講座)	<p>生涯学習課で、短期講座開設に関する大枠（開設要綱・公民館振興計画や年間事業計画など）を策定する。そのうえで、各公民館等で実施する回数やテーマ（内容）に偏りを減らし、地域性のある内容など必要な講座を実施していく。拠点館は、現代的課題をテーマにした講座も実施していくよう努める。実施した講座の振り返りを拠点館担当者で行い、次年度に繋げていく。</p> <p>年間で講座開催数130講座、延べ参加者数4,500人程度を目指す。</p>	<p>令和4年度に短期講座開設要綱を制定した。令和3年度と比べると開催数は102回で同じであるが、延べ参加者数1,973人から大幅に上昇した。各館それぞれが実施しているため、開催回数や内容にばらつきがある。現代的課題に即した講座が少ないため、講座の内容や集客の周知方法について検討が必要である。</p>		<p>短期講座開設要綱に沿って開設していく。各公民館等で実施する回数やテーマ（内容）に偏りを減らし、地域性のある内容など必要な講座を実施していく。拠点館は、現代的課題をテーマにした講座も実施していくよう努める。実施した講座の振り返りを拠点館担当者で行い、次年度に繋げていく。</p> <p>年間で講座開催数130講座、延べ参加者数4,500人程度を目指す。</p>
	開催数	102回	開催数	102回	
	延べ参加者数	1,973人	延べ参加者数	2,563人	

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値	令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
12	公民館活動団体支援事業	<p>今後も活動団体体験期間の実施を通して市民へ公民館活動の情報発信を続ける。出前公演事業を積極的に活用してもらい、地域との交流が促進されるよう出前公演登録団体の増加を図る。</p> <p>また、定期講座受講生が活動団体へ移行を促進できるよう、行政主導で活動団体結成への仕掛け（短期講座の開催）なども検討していく。</p> <p>年間で600団体の登録、出前公演登録100団体を目指す。</p>	<p>若い世代の利用自体が少なく、令和4年度にも高齢のため廃部になった団体がいくつかあった。活動団体同士の交流機会が公民館まつりの実施に留まっている中で、2年連続新型コロナウイルスの影響で出来なかった公民館まつりが令和4年度は感染対策を行いながらの開催となった。特に大きな問題もなく、コロナ禍で内容は変更したが無事実施できた。</p> <p>令和4年9月発行の広報紙「いきいき学びのプラン」では5つの活動団体に取材させていただき記事を掲載し、市民に向けて紹介できる機会となった。</p> <p>また、多くの市民が活動団体へ参加し交流してもらえよう、活動団体体験期間を設定し、広報紙に掲載した。</p>		変更なし
	団体登録数	576団体	団体登録数	553団体	
	出前講演登録団体数	57団体	出前講演登録団体数	67団体	
13	公民館文庫事業（親子文庫事業）	<p>親子文庫事業は継続して実施する。今後は実施館を広げるために、運営ボランティアの育成などを検討していく。</p> <p>親子文庫以外の公民館等の図書については、現状把握を行い、公民館の図書について図書館との連携をはかる。</p> <p>年間事業実施回数160回を目指す。</p>	<p>親子文庫については4館で委託により実施している。小学校と連携をとって、ロング休憩でお話会を実施するなど、積極的に活動している文庫もあった。今後も利用者の増加をはかるなど、周知をはかっていきたい。ただし、各文庫ともボランティアの育成が課題である。</p>		変更なし
	事業実施回数	109回（光陽17回、城北35回、光明39回、新条18回）	事業実施回数	157回（光陽20回、城北42回、光明46回、新条49回）	
14	公民館文庫事業（旅する本事業）	<p>自由に持ち帰りできる気軽さは残しつつ、事業を継続する。現在の実施館以外に、拠点館にも設置を検討していく。事業の認知度を上げるため、積極的に広報活動を行っていく。</p>	<p>公民館等に気軽に足を運び、新たな本に出会うきっかけとなっている。元所有者の想いに触れて興味を持つことで、新たな繋がりとなっている。本も増えてはいるがカウンターを通じずに紹介文を書いた帯をつけて本を置くことも増えてきているため、管理の方法を考えていく必要がある。</p>		自由に持ち帰りできる気軽さは残しつつ、事業を継続する。現在の実施館以外に、拠点館にも設置を検討していく。事業の認知度を上げるため、積極的に広報活動を行い、利用の仕方も周知していく。
15	学び舎プログラム 学び舎ネットワーク 事業	<p>公民館等に来たことがない、利用したことがない人を対象にしているため、今後も気軽に足を運びやすいテーマを検討していく。</p> <p>当該事業をきっかけとして、その他の公民館事業へ参加する市民を増やす。</p> <p>年間に2事業を実施し、延べ参加者数200人程度を目指す。</p>	<p>令和4年度は岸和田市制施行100周年記念事業として、岸和田市の未来を担う子どもたちへ夢をあきらめず、好きなことを追求しチャレンジすることの大切さに気付いてもらうことを目的とし、「好きを仕事にしようよ」を実施した。特別講師として岸和田市出身のakane氏を招き、仕事に対しての講演会の実施及び岸和田高等学校、和泉高等学校、久米田高等学校のダンス部とakane氏プロデュースのアバンギャルディによるダンスパフォーマンスを行った。本会場（市立公民館）とライブビューイング会場（市民センター4館）で分けた。本会場の申し込み対象を中学生・高校生のみとし、ライブビューイング会場は年齢制限なしで募集した。</p> <p>申し込み期間中に対象年齢を超えた方から「生でakaneさんを観たい」という声が複数あり、そういった方々へライブビューイングを案内したものの、申し込みに繋がらないケースが度々あった。今後、ライブビューイング等のデジタル様式を採用し講座を行う際には、対象とする世代との適合性をよく検討の上で実施したいと思う。</p> <p>参加者について、目標数に届かなかったため、今回の事を踏まえて次に活かしていきたい。</p>		変更なし
	実施回数	2回	実施回数	1回	
	延べ参加者数	66人	延べ参加者数	108人	

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値
16	学び舎プログラム まちづくり実践 プロジェクト事業	<p>今後は市側がテーマ（課題）を決定し、実施していく。 事業者が提案をしやすいよう、事業者目線の応募仕様を検討する。</p>
17	学び舎プログラム 学び舎ゼミ事業	<p>引き続き、現代的課題をテーマに継続していく。当該事業の趣旨は公民館事業の本質であり、拠点館で実施できる体制を構築していく。 年間で延べ参加者数160人程度を目指す。</p>
	延べ参加者数	122人
18	公民館まつり事業	<p>公民館等に気軽に足を運び、活動団体の成果を知る機会であるため、全館での開催を進める。また、活動団体だけでなく、社会教育関係団体や一般有料団体へも参加を促していく。 延べ参加者数20,000人程度を目指す。</p>
	延べ参加者数	-
19	高齢者大学運営事業	<p>浜・中央校区には設置していないので、今後、設置を検討する。また、高齢者大学開設要綱を見直し、募集方法を工夫し、広く受講生を募集をしていく。 年間で在籍者数2,500人程度、延べ参加者数15,000人程度を目指す。</p>
	在籍者数	2,213人
	延べ参加者数	2,071人
20	女性学級運営事業	<p>女性学級開設要綱の見直しを行い、定期講座のように学習意欲のある人が気軽に参加できる環境整備を図っていく。 また、新規学級を開設するための短期講座の開催を検討する。 現在ある11学級を維持し、年間で在籍者数350人、延べ参加者数2,450人程度を目指す。</p>
	学級数	11学級
	在籍者数	321人
	延べ参加者数	1,179人

令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
<p>令和4年度は岸和田市制100周年記念事業として実施した。応募団体については1団体しかなく、今後は応募団体の増加が課題である。講座の後半になるにつれ参加者数が減少したため、委託団体と協力し、講座の周知等が必要であった。</p>		<p>事業全体の再構築を行い、事業者が提案をしやすいよう、事業者目線の応募仕様を検討する。</p>
<p>令和4年度は「怒涛の思春期～真っ暗闇にいるあなたに捧ぐ～全5巻」とし、思春期の子どもがいる保護者をメインターゲットとした思春期・反抗期の子どものつきあい方講座を行った。 申し込みは30名を超え、また熱心な参加者も多かったため、3回目と4回目の講座の間に当初予定になかった今までの振り返りかねて交流会を行った。交流会ではゼミ終了後の取り組みとして、中高生の保護者向けの家庭教育学級の立ち上げの打診を行ったところ参加者は前向きであったため、ゼミ終了後も立ち上げに向けて活動を続けている。 事業の趣旨上、気軽に公民館に立ち寄り受講するような内容の講座でなく、企画や受講生集めに苦勞するが、講座の周知方法や公民館の講座として求められている学習内容を模索し、応えていくことが課題である。</p>		<p>地域の課題に対して、参加者の相互学習を通して深く掘り下げて学ぶ連続講座であり公民館事業の本質ともいえる講座である。受講者の知識習得のほか、自主的に何らかの取り組みに参加できるよう促すことを目標とする。年間で延べ参加者数160人程度を目指す。</p>
延べ参加者数	52人	
<p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、公民館まつりを18館で実施した。公民館活動団体の発表の場とすることで活動意欲がわき、また地域の人にも還元できる場となっている。今後も公民館まつりをきっかけとし、公民館に気軽に来館してもらい、講座や活動団体への参加を促したい。</p>		<p>変更なし</p>
延べ参加者数	9,628人	
<p>新型コロナウイルスの影響で前年度までは実施できていない大学も多かった。令和4年度は一部中止もあったが、学習活動を再開できた大学が多かった。高齢者大学は高齢者の学習・交流・生きがいづくりの場となっており、今後も継続して実施していく。 令和5年4月施行に向けて「岸和田市立公民館及び青少年会館における高齢者大学開設要綱」を策定した。</p>		<p>変更なし</p>
在籍者数	1,722人	
延べ参加者数	5,918人	
<p>市立公民館でSTORY女性学級が開講し、12学級となった。学級生の学習意欲は高いが、新しく加入する人が少なくなっており高齢化が進んでいる。 女性学級周知のため、いきいき学びのプラン9月号で女性学級の特集記事を掲載するとともに、女性学級応援講座を実施した。 女性自らが学べる場としての女性学級を継続するとともに、学級生の増加を目指す。</p>		<p>変更なし</p>
学級数	12学級	
在籍者数	278人	
延べ参加者数	1,778人	

事業名		【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値	令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
21	家庭教育学級 運営事業	就学前の子どもの保護者対象の学級が3学級であり、拠点館全館で開設できるよう目指す。 また、小学生の子どもの保護者向け学級も4学級、中高生の子どもの保護者向けの学級1学級からの増加を目指していく。これにより学級生の学習に切れ目がなく継続できる環境の整備を図る。年間で在籍者数100人程度、延べ参加者数700人程度を目指す。	共働き世代の増加により、学級生が減少傾向にある。各学級とも年に1回公開講座を実施している。令和4年度は各学級の交流を図るとともに、学級生の増加を目的として合同学習会を実施した。また、いきいき学びのプラン1月号で家庭教育学級の特集記事を掲載した。 核家族化で子育てに悩んでいる人も多くなっていると思われるので、今後も子育て世代のニーズに寄り添い、インターネットだけでは得られない情報を提供し、学級生の増加につなげていく。 中高生の学級は1学級であるが、山直市民センター・市立公民館で令和5年度から開設できるよう準備している。		変更なし
	就学前の子どもの保護者向けの学級	3学級	就学前の子どもの保護者向けの学級	3学級	
	小学生の子どもの保護者向けの学級	4学級	小学生の子どもの保護者向けの学級	4学級	
	在籍者数	77人	中高生の子どもの保護者向けの学級	1学級	
	延べ参加者数	469人	在籍者数	82人	
		延べ参加者数	534人		
22	子育て支援事業 (キッズルーム)	安全な遊び場としてのフリースペースの提供は継続していく。地区館でも実施を拡大していくか検討を行う。参加者が家庭教育学級等、公民館講座にも関心を持つよう情報提供を行う。 年間で延べ参加者数4,000人程度を目指す。	利用者は前年と比べ約2倍となっているが、新型コロナウイルスの影響はまだあると考える。子どもを遊ばせる場所が少ない中で、安心して遊ぶことのできるキッズルームの役割は大きいと考える。同じ世代の子を持つ保護者同志の交流の場ともなっている。 今後はキッズルームの利用促進のため、SNSを使っての周知方法などを検討するとともに、家庭教育学級や講座への参加などを促す。		変更なし
	延べ参加者数	1,468人	延べ参加者数	2,984人	
23	子育て支援事業 (赤ちゃんサロン)	現在、2館のみで実施しているが、他館でも実施を拡大していくか検討する。未歩行の赤ちゃん限定の安全な遊び場として提供は継続していく。参加者が家庭教育学級や公民館講座に関心を持つよう情報提供を行う。年間で延べ参加者数300人程度を目指す。	市立公民館と光明地区公民館の2館で実施している。令和4年度は市立公民館が空調工事で休館となり実施回数が減ったことにより、利用者は前年にくらべ減少した。 光明地区公民館では、「あかちゃんサロンDEクリスマス」を実施し利用促進につながった。子育て支援センターさくらだいの先生が子育ての相談などにも関わってくださるので、保護者の不安解消にも役立っている。 今後は新しいプログラムも検討し、利用促進につなげたい。		変更なし
	延べ参加者数	189人	延べ参加者数	128人	
24	保育者登録事業	保育者を依頼する際の一定のルール作りが必要。もしくは、他施策（ファミリーサポートセンター等）の活用ができないかの検討を行う。また、保護者が安心して子どもを預けられるよう、保育者研修を充実していく必要がある。 年間で保育者派遣30回、登録者50人程度を目指す。	登録者数はほぼ横ばいで、また高齢化している。家庭教育学級の学級生が学級を卒業後に登録してくれる傾向がある。保育を申し込んでも直前で体調を崩すなどで保育が中止になることがあるがその点も周知済みでの依頼とし、一定の理解は得られていると思う。引き続き公民館保育者の登録への周知を考えていく。		保育者を依頼する際の一定のルール作りが必要。また、保護者が安心して子どもを預けられるよう、保育者研修を充実していく必要がある。 年間で保育者派遣30回、登録者50人程度を目指す。
	派遣回数	19回	派遣回数	28回	
	登録者数	55人	登録者数	55人	

事業名		【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値	令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
25	道しるべ発行事業	冊子の発行及びホームページ掲載は継続して行う。今後は、各講座情報の充実を図るとともに、分野別・事業別で取り組み状況を分析できる内容へと見直しを図っていく。	令和4年度分（第46集）の冊子作成にあたり、閲覧性・検索性を高めるため、各ページのフォーマットの見直しを行った。また、今後の公民館運営事業にとって有益な内容とするという観点から、記載する情報を精査し、新型コロナウイルス感染症感染拡大により各事業が受けた影響（中止理由等）について詳細に記載する項目等を削除した。 今後、編集作業を令和5年度中に行うが、予約システムの統計機能により各館の稼働率の算出が比較的容易となったため、前号発行時は6月上旬頃に終えていた編集作業について、前倒しで完了できる見込みである。これにより、現状把握や分析を速やかに行うことが可能になると思われるが、その結果を各事業の改善・見直しにより早い段階で反映させることが課題である。		変更なし
26	子どもの安全見まもり隊事業	ボランティア数の維持については、町会等にも協力要請を行う。令和3年度以降、事故等の調査を開始し、事故等がなくなるよう、対策を検討していく。	事故等は無し。地域の各種団体へボランティア協力の依頼を行っているが、協力者数が緩やかに減少している。		【48・小学校見守りボランティア事業】と類似事業であることから、引き続き整理・集約できるところを検討していく。
	ボランティア人数	PTA：2,030人 PTA外：1,600人	ボランティア人数	1,529人	
	事故件数	0件	事故件数	0件	
27	子ども110番事業	今後も継続して事業を実施していく。	協力家庭に旗等を配付。各種団体にボランティア協力の依頼を行った。子どもが駆け込んだとの報告はない。		変更なし
28	スクールガードリーダー配置事業	見守り関係事業の集約に伴い、他事業と連携しながら、スクールガードリーダーの必要性を検討していく。	1名のスクールガードリーダーが巡回を行った。新しくスクールガードリーダーの募集を行っているが、応募は無かった。		変更なし
	配置人数	1人	配置人数	1人	
29	リーダー養成事業	令和4年度は、小学6年生を対象にし、機会が失われていた中学1～2年生も対象に募集をかける。 初回に申し込まないと全回参加できないわけではなく、空きがあれば途中参加も可能としていく。 両事業（29リーダー養成事業・30野外活動事業）の長所を統合した内容を、事業に関わる新緑会等とも協議し、決定していく。	対象を小学6年生～中学2年生とし、広報紙、ホームページに募集を掲載のうえ、さらに市内の全小学6年生にチラシを配布した。 しかし、募集人数50名に対し応募者11名と、申込みが非常に少なかったため、参加者の興味を惹く内容にするなど、参加者を増やすための工夫が必要。		対象を小学5年生～小学6年生とし、広報紙、ホームページに募集を掲載する。応募が少ない場合は、市内の全小学5・6年生にチラシを配布する。
30	野外活動事業	両事業（29リーダー養成事業・30野外活動事業）の長所を統合した新事業を検討する。事業に関わる新緑会等とも協議し、令和4年度中に一定の方向性を確立していく。	実施せず。		野外活動の関係事業は【29・リーダー養成事業】【31・教育キャンプ事業】【32・新緑会事業】とすでに複数実施しているため、今後当該事業については単独での実施を見送り、【29・リーダー養成事業】の内容を一部改変する等、事業の整理を図る。

事業名		【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値	令和4年度の実施状況と課題	今後の方向性（変更の場合）
31	教育キャンプ事業	町会子ども会の野外活動を引き続き支援していく。カウンセラーを派遣し、キャンプ運営の補助も行う。	夏休み期間の土日を中心に、8つの子ども会が参加。 岸和田市青少年カウンセラー協議会に事業の委託をおこない、運営を任せている。キャンプ参加者数に対し、キャンプ指導者数が少ないため、場面によっては目が行き届かない場合がある。	変更なし
32	新緑会事業	将来の地域のリーダーを育成するために、新緑会活動に賛同し参加してくれる者に絞って継続を図る。入会していても活動していない者もいるため、実際の活動者を把握し、会員数を増加させる内容を検討していく。リーダーとしての資質向上を図る。	新緑会行事のほかに、リーダー養成事業参加者への指導や、教育キャンプ参加者への指導、さらには、子ども会や青年会議所行事への参加（手伝い）など、幅広い活動を行った。 ただし、会員数が減少しており、会員数を増加させる内容を検討していく必要がある。	変更なし
	会員数	25人	会員数	18人
33	カウンセラー協議会事業	今後も自主的な活動を支援し、事業を継続していく。	年間を通じて様々な野外活動やボランティア活動を実施。 特に年2回開催した防災キャンプについては、府の防災公園に指定されている蜻蛉池公園で防災に対する知識付与や、実際の避難体験など訓練を、多数の参加者を対象に行った。	変更なし
34	子どもの居場所教室事業	ジュニアオーケストラと陶芸は継続。 剣道は定員を50名から25名に変更し、委託料を減額する。定員25名の半数に満たない場合は廃止する。	【剣道教室】 定員を25名までに変更したが新規生徒は1名で、令和4年度当初の生徒数は21名でスタートした。名簿上は21名だが実際教室に毎週通っている生徒は半数以下の為剣道教室の講師と相談し、令和5年3月25日で閉講することになった。 【ジュニアオーケストラ】 フレンドシップコンサートや公民館まつり、成人式に参加、また市立公民館で発表会も開催している。新規生徒を増やすことが課題。（生徒数23名） 【陶芸】 公民館まつりに参加。新規生徒の参加もあったが、2学期以降他の習い事や予定があるなどの理由で辞めてしまう生徒もいた。（生徒数19名）	剣道教室は閉講 ジュニアオーケストラ、陶芸教室は継続
		35	成人式開催事業	法律改正で、今後の開催方法等を検討し、速やかに周知を行う。 新成人のマナーについて、有効な呼びかけ方法を検討していく。
36	フレンドシップコンサート事業	日頃の練習成果を披露する貴重な発表の場として、今後も継続して実施していく。気軽に鑑賞できることを周知し、より多くの市民に会場してもらおうようPRしていく。16団体以上の参加団体を維持できるよう努める。	令和4年度は3年振りの開催となり、コロナ禍前より参加団体が減少した。また、来場者の大半が参加者の保護者や関係者である。 ただし、来場者アンケートの集計から、コンサートに対する満足度が非常に高いという結果が出ているので、気軽に鑑賞できることを周知し、より多くの市民に会場してもらおうようPRしていく。	変更なし
		参加団体数	0団体	参加団体数

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値	令和4年度の実施状況と課題	今後の方向性（変更の場合）
37	非行防止啓発 市民集会事業	今後も更生保護も含めた少年非行防止集会を継続して実施し、各関係団体へ非行防止の啓発を行う。	「少年非行・被害防止・暴走族追放強調月間」市民集会をマドカホールで実施した。 式典、吉本興業所属芸人による非行防止啓発トークライブ、決意表明を行った。 7月が非行防止・再犯防止啓発月間であり、再犯防止の大切さをより多くの市民の方に知ってもらうことが目的なので、アクセス等を考慮し、次年度は浪切ホールで開催することに決定した。	変更なし
38	青少年育成連絡会 事業	今後も、社会がより多様化・変化していく中で、青少年育成の立場から、時勢に合った問題を共通認識する場として研修等を行っていく。	8月、11月に会議を持ち、各団体間で情報共有を行った。	変更なし
39	P T A 協議会 支援事業	今後も継続して自主的な活動を支援していく。	総会・三行詩コンクール・市内一斉清掃・市P研究会・市P大会を行った。 例年、市P大会は講演会等を行っていたが、令和4年度は単位PTAの交流会形式をとった。 交流会では各単位PTAの役員が集まり、なり手不足の現状や今後のPTA活動および市PTA組織のあり方について意見交換をし、課題の洗い出しや共有ができたので、大変有意義だった。	市P大会については、来年度以降も交流会形式に変えて継続予定。また、学校とも連携し、課題改善に向けて取り組む。
40	青少年指導員協議会 支援事業	今後も継続して自主的な活動を支援していく。	社会教育関係団体として、担当地域のパトロール、祭礼時のパトロール、年末夜警、スポーツカーニバルへの参加、岸和田市成人式の警備協力など自主的な活動を行った。	変更なし
41	こども会 育成連絡協議会 支援事業	今後も継続して自主的な活動を支援していく。	「夏季・冬季スポーツ大会」など、全ての行事を滞りなく開催。 泉南ブロックこども会と合同で開催する「育成者研修会・こども交歓会」など、他市町のこども会との交流も活発に行った。	変更なし
42	青年団協議会 支援事業	今後も継続して自主的な活動を支援していく。	薬剤散布、成人式の応援は問題なく行うことができた。 しかし、各町青年団が集まれるようなイベントや行事は開催できなかった。	変更なし
43	ボーイスカウト 支援事業	今後も継続して自主的な活動を支援していく。	社会教育関係団体として、自主的な活動を行っている。	変更なし
44	ガールスカウト 支援事業	今後も継続して自主的な活動を支援していく。	社会教育関係団体として、自主的な活動を行っている。	変更なし
45	障害者学級支援事業	今後も継続して自主的な活動を支援していく。	令和4年度は、コロナ禍以降徐々に1年を通じて各種行事（カヌー体験やクリスマスコンサート、芋掘りなど）を実施できた。 障害者は帰宅後や休日に人と関わったり、学ぶ機会が減少する状況から、月に1度の活動が貴重なつながりの場となっている。	変更なし
46	サマースクール 実行委員会支援事業	今後も継続して自主的な活動を支援していく。	令和2年度および3年度はコロナ禍で中止したサマースクールを令和4年度は開催した。 コロナ禍前は7月にプール遊び等を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、障害児に活動の場を提供することを主な目的として、親子で参加できる客席参加型ショーを実施した。	変更なし

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値	令和4年度の実施状況と課題	今後の方向性（変更の場合）
47	通学路 巡回パトロール事業 (通称：青パト)	【令和4年度～新規事業】	令和4年度から学校教育課より事業移管。大阪府の安まちメールや学校教育課からの不審者情報をもとに、巡回場所を臨機応変に変更するなど行っている。	学校とも連携し、より効果的な巡回を実施していく。
48	小学校 見守りボランティア 事業	【令和4年度～新規事業】	令和4年度から学校管理課より事業移管。【26・子どもの安全見守り隊事業】と類似事業であることから、引き続き整理・集約できるところを検討していく。	【26・子どもの安全見守り隊事業】と類似事業であることから、引き続き整理・集約できるところを検討していく。

岸和田市生涯学習実施計画 令和4年度 振り返りシート集約表【図書館】

事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値	
1 図書資料貸出・回収事業	「収集」「整理」「保存」「提供」の基本機能を守りつつ、時代のニーズに対応するため、ICT化を進めるとともに、「交流」「知識」を創造する場を積極的に作り、資料の提供に繋げていく。	
2 図書館資料収集・整理事業（資料収集）	電子書籍や商用データベースなどの導入を検討し、多種多様な資料を収集していく。	
3 図書館資料収集・整理事業（郷土資料整備）	令和4年度以降は、関係課との会議を継続しながら地道に整理し、今後も保存するためのツールとして、さらにデータ保存をすすめていく。	
4 図書情報提供事業	令和3年度事業として、図書館にある資料のデジタルアーカイブ化をすすめ、ホームページの充実に努める。	
5 レファレンス（相談）業務事業	あるテーマを調べるときに役立つ基本的な図書資料、情報源、その探し方などを紹介した「パスファインダー」を作成し、利用者が求めている資料にたどりつけるよう工夫をする。	
6 図書館行事開催事業（図書館友の会）	自主運営で会員相互の交流と親睦を図りながら読書や趣味の活動を広げている「友の会」の例会等に図書館も参加しながら意見交換をし、読書活動の発展のサポートができるよう努める。 年間で各教室の開催60回、延べ参加者数580人程度を目指す。	
	開催数	50回
	延べ参加者数	484人

令和4年度の実施状況と課題	今後の方向性（変更の場合）
利用者数、貸出数とも微増だが増加傾向にある。今後、時代のニーズに沿った資料の提供に繋げるべく、まずは導入した電子図書館の利用促進から始めている。今後、利用者のニーズを把握することが課題である。	変更なし
令和4年度から電子書籍や商用データベースなどを導入し、利用者に提供を開始した。今後も多種多様な資料を収集していくとともに、これらの利用者への周知や活用推進が課題である。	変更なし
郷土史家の協力を得て、幕末の岸和田に関する和漢書の整理が令和4年度で終了した。令和5年度からは図書館システムに登録し目録化していく作業と同時進行で、特に泉州に係のある資料について、より分かりやすく説明を加えたものを図書館ホームページにある「地域デジタルコレクション」にも登録していくことを目指しているが、専任職員が不在のため、少しずつしかすすまないのが現状である。	図書館システムに登録し目録化し、特に泉州に係のある資料について、図書館ホームページにある「地域デジタルコレクション」にも登録していく。
本棚リレーや岸和田ブックフェスタの開催等比較的新しい事業のほかにも、岸和田市図書館友の会との共催事業や図書館まつり等、既存の団体の取り組みにも、自発的に取り組んでもらえるよう後方支援という形で関わりながら、情報発信を行っている。図書館が事業を企画をし、場所を提供するという形ではなく、自立した市民や学生、事業者等が主体的に運営に関わってもらえる仕組みづくりを目指している。また、ホームページ内にある「地域デジタルコレクション」の絵はがきデータを追加したほか、市制施行記念の動画をまとめて登録した。今後も他部署が持っている写真や動画データも含め、後世に残すべきものを厳選し、「地域デジタルコレクション」の充実を目指したいが、専属の担当者が不在のため、少しずつしか進まないのが現状である。	変更なし
令和4年度は新規作成はなく、次のパスファインダー作成のため、テーマについて候補を上げ検討した。 課題としては、作成済みの資料の更新と利用者への周知。 積極的に案内資料を配布したり、利用者がレファレンスサービスを気軽に利用できる環境作りなどに取り組みたい。	変更なし
運営委員会に担当職員が常時参加することで、図書館と友の会との関係性がよくなり情報交換も以前よりもできるようになった。 【総会の開催】 運営委員会12回 <文章教室（12回）・詩の教室（12回）・短歌教室（12回）・俳句教室（11回） 岸和田市発見教室（12回）> 公開講演会2回、文学歴史散歩（バスツアー）1回、史跡を歩くツアー1回、公開講座3回 課題：友の会会員や教室生以外の多くの市民にも参加してもらうこと	変更なし
開催数	66回
延べ参加者数	965人

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値
7	図書館まつり開催事業	ブックフェスタ開催事業と重複している部分もあるため、いかに融合させて取り組んでいけるかを、それぞれの実践の中で探っていきながら、いずれは一本化を目指す。 入館者数1,000人程度を目指す。
	入館者数	550人
8	自動車文庫事業	令和4年度から令和6年度末までに、全小中学校への団体貸出の配送サービスを実現するために、学校教育課と学校との連携を強化していく。自動車文庫(なかよし号)については、学校向けに特化する。
9	障害者サービス事業	平成23年度からボランティアセンターより録音図書貸出サービスの移管を受けてから、10年経過する。ボランティアセンター、ボランティアとの意見交換の場を設け、利用者のニーズの把握とサービス向上を図る。 今後は従来の「障害者手帳をお持ちの方」への障害者サービスとしてだけでなく、図書館利用が困難な方へのサービスについての取り組みを検討していく。
10	図書館活動企画事業	図書館職員の企画、実施だけではなく他部署の企画や市民の提案などにもアンテナを張りながら、多様な事業展開を目指す。

令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
新メンバーも加わり固定化した形ではなく、個人でも参加できるような形に変化しつつある。今年度も、新型コロナウイルス対策をしながらイベントを開催し、大盛況であった。今後の課題については、ブックフェスタ事業との融合に向け、事務局から更に方向性を導き出すことに注力し、最終的には一本化を目指し、今後も活動を継続する。		変更なし
入館者数	625人	
令和4年度より、小学校への団体貸出配送サービスを12校に拡充し運用。今後学校との連携した運用を目指し、意見交換の場を持つ。さらにニーズに沿った学校支援サービスを見直す必要がある。今後の自動車文庫(なかよし号)について、課題としては、予算の確保と人材、運用の見直しが必要である。まずは、学校や関連施設等への協議や調査も必要である。		R5年度より、子ども読書推進会議事業の一環として、学校や関連機関と情報交換しながら運用方法を見極めていく。学校配送サービスと自動車文庫(なかよし号)の運用の方針を決定し読書推進計画に繋げていく。
<p><令和4年度実施した障害者サービス></p> デイジー図書、カセットテープ、点字図書の貸出、対面朗読サービス、宅配サービス デイジー図書については、岸和田市立図書館が国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスに参加することで、サピエ図書館上でダウンロードして利用することが可能になり、より多くの方に利用していただくことができるようになった。今後も引き続き、所蔵分と新規納品分のデータ化を国立国会図書館に提供し、利用してもらう。カセットテープの貸出については、テープ自体の劣化が進行し、利用者が使用できなくなっている。今後はデイジー図書での利用を案内していく。 <p><令和4年度実績></p> 【デイジー図書ダウンロード利用数】 311タイトル 14,770回 【市民への貸出数】 のべ115人 1555点 【市外への貸出数】 のべ614施設 1445点 【対面朗読】 のべ36人 64回 【宅配】 のべ57人 395冊 【点字図書貸出冊数】 42冊		変更なし
他部署との企画展示 ・和歌山大学岸和田サテライト 和浪切サロンとの連携企画展示（5回） ・人権・男女共同参画課との連携企画展示（1回） ・図書館OBによる郷土資料展示「泉州ゆかりコレクション」（5回） ・都市計画課景観展示（2回） ・児童養護施設「あおぞら」里親展示（1回） ・本棚リレー展示（11回） 新図書館みらいラボ（9回 延べ参加人数167名） 山直図書館みらいラボ古民家PJ（9回 延べ参加人数90名） 山直図書館みらいラボクリエイティブチーム（11回 延べ参加人数62名） 空間デザインラボ（9回 延べ参加人数55名） 新図書館みらいラボ～庁内勉強会（6回 延べ参加人数76名）		変更なし

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値
11	ブックフェスタ 開催事業	イベント企画者が主催者となり開催し、図書館は場所の提供、広報きしわだ、ホームページでの情報提供などの後方支援という形が出来てきたが、今後はルール化してゆるやかに広がっていく仕組みづくりを検討する。 年間で開催数20回程度と、延べ参加者数300人程度を目指す。
	開催数	8回
	延べ参加者数	58人
12	子ども読書活動推進 会議事業	「本を全く読まない子どもの割合（不読率）」を全国平均以下とする。不読率は、令和3年度において、全国24.0%、大阪府28.9%、岸和田市36.0%である。全国の24.0%を目指し取り組んでいく。
	不読率の割合	調査の項目から外れたため、数値目標なし。
13	お話配達事業	今後、全小学校にお話の配達を実施できるよう、お話配達に参加できるメンバーの確保と育成、個々のスキルアップを目指す。
14	ブックスタート事業	ブックスタートセットの100%配布を目指す。また、関係者との連携を図り、子育て情報誌の活用と「読み聞かせ読書手帳」の活用等を伝えていく。
	配布率	99%

令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
令和4年度は、春・秋の2回、開催した。秋は100周年記念事業企画として、岸和田初のフリーマーケット型古本市を岸和田城のお堀端で開催し、関連イベントとともに本・人・街の一体化を目指した。アンケート結果は概ね好評であった。本を介してコミュニケーションを深める本事業についての説明の機会が増えたことから、徐々に市民の間に取り組みについての理解が浸透しつつある。今後も継続事業として取り組んでいく。新規参入者も含め企画者がより自発的に開催できるよう方向づけること、また、活発化している図書館ラボの活動・情報を共有し、関連事業の推進に協力するとともにラボを自立に導くことが課題である。		変更なし
開催数	16回	
延べ参加者数	305人	
第4次子ども読書活動推進計画策定（令和6年度策定予定）に向けて、各関係課と協議や図書館基本計画に沿った取組を計画的に行った。今後の課題については、数値目標の達成に向けての改善策を図書館だけでなく、連携課との協議や実践を持ちつつ、計画に反映できればと考えている。 定例おはなし会については、参加者も年々増えている。今後も継続し、より利用者のニーズに沿った事業を検討し読書推進に繋げていく。 ・分館でのおはなし会等の開催（143回・延べ953人） ・本館でのおはなし会等の開催（194回・延べ194人） ・中学校職場体験事業については、今年度は6館で3校を受け入れ実施（延べ7人） ・科学実験教室については、2館で開催（延べ16人） ・読書感想文の書き方講座については、4館で開催（延べ55人） ・一日図書館員は、2館で開催（延べ7人） ・自由研究相談会は、2館で開催（延べ23人） ・セラピードックで読み聞かせを本館で開催（参加26人） ・公民館事業「赤ちゃんひろば」に参加（延べ10人）		本を全く読まない子どもの割合（不読率）を全国平均以下とするを数値目標とする。不読率は、令和4年度において、全国26.3%、大阪31.9%、岸和田37.6%である。全国の26.3%を目指し取り組んでいく。 令和5年度より、第4次子ども読書活動推進計画書（素案）作成のため、関係課とさらに密に連携をとり実践を重ねながら計画書に盛り込んでいく。
不読率の割合	37.6%	
小学校へのお話配達事業の今年度の依頼校は、21校で実施した。実施については、ボランティアスタッフにほぼ依頼しているが、スタッフの確保が年々困難となっている。課題としては、全小学校へのおはなし配達の実施とボランティアスタッフの確保が重要である。		子ども読書活動推進計画事業を推進するために、学校との連携を強化し、読書推進計画に沿った取組を目指す。今後も継続したボランティアスタッフの確保や育成を目指す。
コロナ禍ではあったが、定例通り開催。配布率は、99%に達した。今後100%の配布を目指す。課題としては、絵本の読み聞かせと読み聞かせ手帳の活用についてのPRなどの機会をあらゆる方向で検討し読書推進に繋げていく。		変更なし
配布率	99%	

岸和田市生涯学習実施計画 令和4年度 振り返りシート集約表【スポーツ振興課】

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値
1	市民スポーツ大会 開催事業	参加者は減少しているが、スポーツ振興のため、岸和田市スポーツ協会と協力しながら、年間延べ参加者数8,000人程度を見込めるよう努める。
	延べ参加者数	3,153人
2	大阪府総合体育 大会参加事業	市のスポーツ振興、及び競技者のレベルアップのため継続して参加する。年間延べ320人程度の選手派遣を目指す。
	延べ派遣人数	なし
3	スポーツ少年大会 開催事業	参加者は減少しているが、スポーツ振興のため、登録団体数は維持し、各団体と協力しながら継続していく。
	登録団体数	20団体
4	スポーツカーニバル 開催事業	少子高齢化が進んでいるが、校区のコミュニティの交流やスポーツ振興のため、全小学校区参加で継続していく。
	参加校区数	実施せず
5	ファミリースポーツ 開催事業	多世代や家族などで参加できるファミリースポーツとして継続していく。年間延べ参加者数230人程度を目指す。
	延べ参加者数	ウォークラリー 287人、ファミリー登山 40人、ポッチャ体験 14人
6	レクリエーション スポーツ大会開催事業	誰でも参加できる気軽なスポーツとして、継続していく。参加者数90人程度を目指す。
	参加者数	なし
7	市民ゲートボール大会 開催事業	ゲートボール連盟と協力し、特に中高年層の健康維持や楽しみづくりとして継続していく。参加者数120人程度を目指す。
	参加者数	なし
8	K I X 泉州国際マラソン事業	健康維持や気軽にできるスポーツとして、ジョギングをする人が増えている。各スポーツ団体のボランティアと連携し、継続していく。
9	水泳教室開催事業	参加者は減少しているが、身近な場所、短期間で気軽に参加できる初心者教室といったメリットがあり、ポスターやチラシ作成などPRに努めながら、継続していく。

令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
<p>コロナが収まっていない中での開催であったが、前年度に比べ市民スポーツ大会各種目の開催中止は大幅に減少した。</p> <p>しかし、令和元年度以前（コロナ禍前）と比べ、参加者数は依然減少傾向にある。</p>		変更なし
延べ参加者数	5,819人	
<p>B M X 競技やスポーツクライミング、スケートボード、ダンスなど様々なスポーツが増え、スポーツに取り組む選択肢が増えたことや、少子高齢化などにより、参加者数が減少している。</p> <p>3年ぶりの開催で参加者が減少する種目もあった。感染の不安によるもののほか、毎年の定期的な参加が中断されたことによる不参加の可能性もあると考えられる。</p>		変更なし
延べ派遣人数	398人	
<p>スポーツ少年大会は実施再開された。登録に関しては指導者の資格の変更のため、同じ系列の団が合併するなどで団体数は減少したが、人数は変わっていない。</p>		変更なし
登録団体数	16団体	
<p>コロナが収まっていない中での3年ぶりの開催であったが、22校区の参加があった。すべての種目に参加できなくても参加してくれた校区もあった。</p> <p>少子高齢化が進み、町会・子ども会に入会しない人も多いが、24校区全部が参加できることを前提に実施している事業であるため、集客方法の再検討など、工夫の必要がある。</p>		変更なし
参加校区数	22校区	
<p>スポーツ推進委員協議会が主体となり、市内小学校校区を4つに分けたそれぞれのブロックで年2回ずつグラウンドゴルフ体験会、ポッチャ体験会、BMX体験会を行った。</p>		変更なし
延べ参加者数	ウォークラリー 295人 各体験会 130人（ファミリー登山は雨天中止）	
<p>岸和田市スポーツリーダークラブとの共催により、例年、岸和田ファミリーベタンク大会を実施しているが、新型コロナウイルスの感染拡大による影響により中止となった。</p>		変更なし
参加者数	なし	
<p>3年ぶりに市民ゲートボール大会を開催した。</p> <p>コロナ禍の影響かは不明だが、参加人数は減少傾向である。</p> <p>※ゲートボール連盟の役員や参加者は高齢である。</p>		変更なし
参加者数	80人	
<p>3年ぶりの公道でのリアル開催となった。現状、沿道整理として協力を行っているが、沿道整理員の確保人員が減少しており、今後、どのように確保するかが課題である。</p> <p>参加者数：4,128人</p>		変更なし
<p>3年ぶりに市内6プールで開催した。屋外プールでの実施や子どもたちの遊びの多様化に伴う、受講者数の減少や指導者の確保が課題である。</p> <p>申込者数：前期171名 後期178名（計349名）</p>		変更なし

事業名		【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値
10	ワールドマスターズゲームズ2021関西大会開催事業	今大会を機に関係機関と連携し、岸和田市のPRやBMX競技者の増加など、スポーツ振興を図る。国内外のPRに努め、参加定員である100名の参加者を目指す。
	参加者数	なし
11	スポーツ推進計画推進事業	本市のスポーツ振興を目的に、スポーツ推進審議会を開催し、各委員から意見や、検証をして計画の進行管理を行う。
12	スポーツ推進委員事業	スポーツ推進委員と協力しながら、スポーツイベントの開催など、本市のスポーツ振興を継続して行う。
13	学校体育施設開放事業	市のスポーツ振興を目的に、小中学校体育施設開放運営協議会と連携しながら継続して行う。年間延べ利用者数250,000人程度を維持していく。
	延べ利用者数	129,983人
14	スポーツリーダークラブ支援事業	スポーツリーダークラブの活動支援のため、定例会議や研修などを行う。
15	地域スポーツクラブ支援事業	総合型地域スポーツクラブが継続して活動できるよう、情報提供など継続して支援を行う。
16	スポーツ協会支援事業	スポーツ振興のため、大会場所の確保など、各スポーツ団体の活動支援を行う。
17	スポーツ少年団支援事業	スポーツ振興のため、大会場所の確保など、各スポーツ少年団体の活動支援を行う。
18	総合体育館指定管理事業	指定管理者制度を活用し、施設の適切な管理運営や、施設を活用した様々なスポーツ教室、スポーツイベント、大会の開催など、継続して行う。年間延べ利用者数270,000人程度を目指す。
	延べ利用者数	160,244人

令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
<p>カンカンベイサイドモールで実施された、「KISHIWADA SPORTS FES 2022」でBMX体験会を実施した。BMX体験参加者は133人(総参加者1,867人)</p> <p>大阪万博記念公園でのイベント参加や市のHP、YouTube等でBMX及びワールドマスターズゲームズのPRを行った。</p> <p>※ワールドマスターズゲームズ2021は、2027年5月に延期が決定している。</p>		変更なし
参加者数	なし	
<p>岸和田市スポーツ推進計画中間見直しの検討資料とするため、一般市民4,000人、小学4年生1,600人、中学1年生1,500人、保育園保護者1,600人にアンケートを実施した。</p>		変更なし
<p>スポーツカーニバルをはじめイベントを実施した。新型コロナウイルスの影響もあったと思われるが、参加人数が少ないものなどは周知方法を工夫する必要がある。</p> <p>参加人数の多い事業はライフチャレンジザウォークで、市内小学校の低学年全員に学校より案内を配布したため集客に有効だったと考えられる。</p> <p>参加人数の減少事業は、市民スポーツカーニバルで、子ども会に加入しない子どもが増えているのか、選手選考ができず参加しない校区があった。</p>		変更なし
<p>コロナが収まっていない中であつたが、令和3年度と比べ、利用者が増加した。</p>		変更なし
延べ利用者数	199,777人	
<p>定例会議を開催した。毎年実施しているファミリーベタンク大会は新型コロナウイルスの感染拡大により中止となった。</p>		変更なし
<p>市内には、NPO法人スポーツクラブディアマンテ、NPO法人FC岸和田の2カ所の総合型地域スポーツクラブがあり、それぞれがクラブハウスを所有し、そこを拠点として活動している。種目としては、サッカー、体操、バスケットボール、卓球など様々なスポーツを実施している。それぞれが独立して活動しており、市としては、情報提供などを行った。</p>		変更なし
<p>市民スポーツ大会の開催会場（総合体育館等の屋内施設・各運動広場）については、ほぼ要望どおり確保・提供することができた。</p> <p>ただし、水泳大会の会場となるプール等、一部の施設の確保については、予算の関係もありサポートできなかった。</p>		変更なし
<p>概ね、コロナ前の実施状況に戻っている。</p>		変更なし
<p>指定管理者が館の運営を受託し、プロリーグの開催や全国規模のスポーツ大会、また様々なスポーツ教室、イベントを実施し、スポーツ振興に大きく貢献している。</p> <p>コロナ禍以前に比べ利用者は減少したがトレーニングルームは高齢者も多く利用し、介護予防や健康増進にも大きく貢献している。</p> <p>本市のスポーツ活動の中心となる施設であるが、躯体や設備、備品などすべてにおいて老朽化が進んでおり、安全面に関する部分を優先的に修繕・工事を行っている。</p> <p>ハード面では現状維持、ソフト面では創意工夫によりスポーツ振興に引き続き取り組む。</p>		変更なし
延べ利用者数	206,087人	

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値
19	市民道場心技館指定管理事業	指定管理者制度を活用し、施設の適切な管理運営や、施設を活用した武道教室の開催などを行っていく。
20	市民体育館指定管理事業	指定管理者制度を活用し、施設の適切な管理運営や、施設を活用した様々なスポーツ教室の開催など継続して行う。年間延べ利用者数70,000人程度を目指す。
	延べ利用者数	37,419人
21	運動広場等指定管理事業	指定管理者制度を活用し、施設の適切な管理運営や、施設を活用した様々なスポーツ教室など継続して行う。年間延べ利用者数110,000人程度を目指す。
	延べ利用者数	77,754人

令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
指定管理者が武道教室等を実施し、本市の武道発展に貢献してきた。 歴史のある施設であるが、躯体や設備など老朽化が進んでおり、耐震性などの安全面に問題がある。他施設への機能移転を進める。		変更なし
各スポーツ団体やグループが卓球やバレーボールなどを実施している。身近なところでスポーツができ、コミュニティの場、健康維持、増進に役立っている。 地域の住民の活動を担う施設であるが、躯体や設備、備品などすべてにおいて老朽化が進んでいる。また、耐震性に欠けることから、早期に代替施策等について検討する。		変更なし
延べ利用者数	46,616人	
多くの市民が野球やサッカー、グラウンドゴルフ、テニスなどスポーツを楽しんでおり、コミュニティの場、健康増進、楽しみ、生きがいづくりの場となっている。 屋外でのスポーツ活動の受け皿となっており、継続的に修繕・補修を行う必要がある。		変更なし
延べ利用者数	82,533人	

岸和田市生涯学習実施計画 令和4年度 振り返りシート集約表【郷土文化課】

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値
1	濱田青陵賞事業	現状を維持しながらも新しい要素も取り入れて刷新をはかり、シンポジウム参加者数400人程度を目指す。 賞の存続に関しては、朝日新聞社の意向も確認しながら現状の体制で継続を目指す。
	延べ参加者数	無観客開催
2	展示普及事業	現状を維持しながらも新しい要素も取り入れていく。
	講座開催事業	子ども向け講座などの企画を検討していく。
4	指定文化財標柱・説明板設置事業	現状を維持しつつ、地域住民に文化財の周知・啓発を行うため、指定文化財等への案内板の設置や劣化した説明板の更新していく。また岸和田市指定文化財の説明板の設置を拡大する。
5	講師派遣事業 (郷土史・文化財)	現状を維持していく。内容に関してはホームページなどでの周知も検討する。
6	発掘調査報告書発行事業 (文化財)	発行部数が少ないため、今後刊行する報告書に関しては、PDF化してホームページで公開を検討していく。

令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
令和4年度は、2年ぶりの有観客開催を行った。また、Youtube生配信も並行して実施した。観客数は会場に120名程度、Youtube生配信は、当日、約500名程度の再生を記録した。動画は、そのまま濱田青陵賞運営協議会のアカウントに残しているため、継続して再生されており、濱田青陵賞の周知効果としては非常に高いと考えられる。 賞の存続に関しては、朝日新聞社の意向も確認しながら現状の体制で継続を目指す。		変更なし
延べ参加者数	約120名（動画配信参加約500名）	
岸和田城企画展を4回開催した。 ①「岸和田市と高石市の文化財－広域連携をはじめるにあたって－」 ②「収藏品展－岸和田の美術－」 ③市制100周年記念事業特別展 「岸和田と岡部家－岸和田の礎を築いた岡部家の変遷をたどる－」 ④「図会でめぐる岸和田・高石の名所旧跡」 →展示内容への理解を深めていただくため、展示解説を実施した。 →各小中学校・産業高校、公共施設等へ企画展のポスターやチラシを配布した。 →出前展示（観光交流センター・カンカンベイサイドモール・八木市民センター）を実施した。 (課題)企画展の周知方法の拡大		変更なし
企画展に関連した講座は実施していない。 展示に伴い随時展示解説等を行い、周知を図った。		変更なし
文化財説明板を1か所に設置し、地域住民に文化財を周知、啓発を行った。市内全域では岸和田指定文化財9か所に説明板が設置されたこととなる。 また、こなから坂の入り口に、岸和田城庭園（八陣の庭）の案内板を設置した。		変更なし
生涯学習出前講座、その他直接依頼を中心に、文化財、郷土史のジャンルに応じて講師派遣を行った。 郷土史担当4件（出前授業1【太田小6年生】、出前講座3件） 文化財担当15件（TV・ラジオ出演、動画出演、講義、生涯学習出前講座を含む）		変更なし
令和4年度は岸和田市内、高石市内の遺跡の発掘調査成果を所収した『令和4年度発掘調査概要』の刊行を行った。300部印刷し、関係各機関、市内施設等に配布を行い、周知を図った。この報告書は、特殊な内容であり広く閲覧される内容ではないため、PDF化は行っていない。		変更なし

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値
7	ブナ林保全事業 (文化財)	引き続き、『和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画』に基づき保護増殖活動を実施していく。また、令和5年3月7日に国の天然記念物指定を受けてから100年の節目を迎えるにあたり、関連団体とのより強固な関係構築のため、活動内容の共有を促進する。
8	自然資料館貸館事業	多目的ホールは自主事業により利用できない期間が多いが、貸出しは可能であることの周知を図る。年間で無料7回、有料3回程度の貸出しを目指す。
	貸出回数(無料)	6回
	貸出回数(有料)	1回
9	企画展開催事業 (自然史)	他の博物館と共同で実施する巡回展を活用することで、企画内容の多様化と費用・労力の低減を図る。特別展と同様に、2～3年先を見越した展示計画策定も必要である。 企画展開催は年間3回、延べ入場者数5,000人程度を目指す。
	開催数	3回
	延べ入場者数	3,474名
10	講師派遣事業 (自然史)	学校・園の児童・生徒向け出前授業を充実させるのに加え、教員向け研修や教員と共同での学習プログラム開発を行うことで、両者の関係強化につなげていく。 講師派遣数は年間65回程度、延べ参加者数3,000人程度を目指す。
	派遣回数	50回
	延べ参加者数	2,899名
11	室内講座等実施事業 (自然史)	身近な地域の自然について学ぶ機会を提供するという自然資料館の設置目的を念頭に置いたうえで、講座内容のレベル向上を図りつつ、未就学児や障害者への対応、常設展示との関連性を意識した内容へと発展させる。また、オンラインでの新しい実施形態にも取り組んでいく。 講座開催数は年間80回程度、延べ参加者数2,700人程度を目指す。
	開催数	68回
	延べ参加者数	2,461名

令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性(変更の場合)
『和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画』に基づき保護増殖活動し、天然記念物指定100周年を記念する事業を実施した。和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会およびボランティア団体等とのワーキング会議で活動内容を共有しつつ、保護増殖活動を継続していく。 天然記念物指定100周年を記念する事業 ・ブナ愛樹クラブ主催「国指定天然記念物100周年記念植樹会」協力 ・ハイキング(雨天のため中止) ・「広報きしわだ7月号」の表紙に掲載 ・ベイサイトモール2階ちきりプラザにおけるパネル展		変更なし
無料で貸出し回数は目標どおりだったが、有料については、希望は1件あったものの特別展会期中でホールが使用できない時期だったため、最終的に貸し出しはなかった。ホールのみ使用希望は高齢者団体の割合が高く、その利用は回復しつつあるものの、感染状況を受けて取り止めた事例はあり、今後の見通しは不透明である。		変更なし
貸出回数(無料)	7回	変更なし
貸出回数(有料)	0回	
毎年開催している写真展のほか、市制施行100周年記念事業に関連した水とみどり課との共催による写真展、郵趣会の協力を受けた生き物が描かれた郵便切手の展示、和泉葛城山ブナ林の天然記念物指定100周年を記念した展示の計4回を実施した。制限緩和の流れを受けて来館者数は感染拡大前に戻りつつあり、多種多様なテーマでの魅力ある展示を企画することで、目標の達成に努めていきたい。		
開催数	4回	変更なし
延べ入場者数	3,810名(ベイサイトモール2階ちきりプラザで開催したブナ林のパネル展は含まず)	
学校・園の活動が感染拡大前に戻りつつあることもあり、講師派遣回数、延べ参加者数ともに目標数値をほぼ達成できた。行動制限が緩和傾向にあるなか、授業は対面での実施が中心となり、完全オンラインの実施は5回のみであったが、事前打ち合わせ等では引き続きオンラインを活用しており、移動時間短縮など業務効率化に効果を発揮した。講師派遣66回のうち学校・園からの依頼は40回に及び、授業における子どもたちの自然体験増加に貢献した。		変更なし
派遣回数	66回	変更なし
延べ参加者数	3,475名	
令和4年度は普及行事のうち野外観察会を多めに実施するようにし、また同じ日に行事が重なることを避けるよう調整した結果、室内講座の実施回数は前年度より減少し、目標値には及ばなかった。ただ、普及行事全体では実施回数、延べ参加者数ともにほぼコロナ前の水準まで回復しており、申し込み不要で参加可能な大規模な室内講座が再開できれば、さらなる上積みが見られると思われる。オンライン講座は、対面実施再開の流れを受け、前年度より実施回数は減らしたものの、来館しづらい市民や未就学児、遠隔地の方を中心に参加者は多く、一定の需要は継続しているものと思われた。子どもたちが安心して体験できる室内講座の需要は大きく、対面とオンラインを効果的に組み合わせながら、引き続き積極的な開催に努めたい。		変更なし
開催数	57回	変更なし
延べ参加者数	2,123名	

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値
12	野外観察会実施事業	身近な地域の自然について学ぶ機会を提供するという自然資料館の設置目的を念頭に置いたうえで、より魅力ある内容での実施を継続する。ボランティアについては、何らかの補償ができるよう位置づけの明確化を図る。 年間実施数15回程度、延べ参加者数350人程度を目指す。
	実施回数	11回
	延べ参加者数	213名
13	自然関連冊子発行事業	研究報告・館報については、可能な限り定期的に発行できるようにする。普及用の印刷物については、内容だけでなく装丁の質にも注意を払い、来館者が手に取りやすいものとする事で、その普及効果を高める。
14	展示品整備事業 (自然史)	大規模な更新は当面難しいが、学芸員が自力で製作できる範囲での更新は着実に進める。
15	特別展開催事業 (自然史)	2～3年先を見越した展示計画を策定する。また、広報手段の改善を図り、来館の契機となるような機会を増やすことで、入場者数の増加を図る。年間延べ入場者数4,200人程度を目指す。
	延べ入場者数	6,125名
16	自然資料貸出事業	貸出キット類の種類を増やすとともに、学校園に対してその存在を周知する。教員や保育士と連携したキット開発にも取り組む。年間35件程度の貸出しを目指す。
	貸出し件数	29回
17	調査・研究事業 (自然史)	大学や他の博物館、研究所等との連携をさらに進め、在野のアマチュア研究者等の力も借りることで、調査・研究の遂行に必要な専門的知見を有する人材や高度な機器類の不足を補う。

令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
<p>市政施行100周年記念特別展にあわせ、市内の自然を実際に体験できる機会となる野外観察会を例年より多めに設定したことから、目標に比べ回数が約140%、参加者数は約160%となり、計画を超える実施となった。定員を設定した行事の半数以上は申込者が定員を超えており、子どもを中心とした多くの市民の要望に応える自然学習の場として機能したと考えられる。行動制限緩和の流れを受け、安心して自然に親しむことができる野外観察会の需要は今後さらに大きくなると考えられることから、引き続き積極的な開催に努めたい。</p>		変更なし
実施回数	21回	変更なし
延べ参加者数	546名	
<p>教員向け情報誌と研究報告・館報の2種類を発行したが、いずれも学芸員が編集とレイアウトの作業を行った。後者については、多数の執筆者が関わるうえに編集作業に時間がかかる印刷物であることから、原稿の提出期限を早期に設定していたが、それでも提出が遅れたものがあり、年度末ぎりぎりの発行となった。それでも、目標である毎年発行は達成できた。</p>		変更なし
<p>寄贈資料や映像展示を追加しつつ、一部の展示什器（映像装置）の更新を行ったが、抜本的な更新には至っていない。引き続き、開館以来ほとんど手を入れることができていないエリアの更新をめざす。</p>		変更なし
<p>令和4年度の特別展は、市制施行100周年記念事業として「岸和田の海と山と人・100年の物語」を開催した。総入場者数は目標値を約10%上回ったが、これは感染拡大前に外部からの支援を受けて開催し、盛況を博した令和元年度特別展とほぼ同程度の数値である。展示は岸和田市の自然100年の変遷を多数の標本や写真・映像、地形模型等により振り返りつつ、現況もしっかり理解できるような内容とした。また、市民から広く古写真を募集して展示するなど、地域性を重視した展示内容としたことが、コロナ禍で遠方へ足を運びづらい時期に来館を促す効果をもたらしたのかもしれない。</p>		変更なし
延べ入場者数	4,692名	変更なし
<p>これまでと同様、チリメンモンスター関連物品と化石レプリカセットが中心だったが、標本や地学関連機器、図書の貸出しも9件あった。岸和田市内学校・園による利用は4件で、うち3件はチリメンモンスター関連の貸出しであった。引き続き自然資料館が保有する貸出キット類の周知に努め、さらなる利用を促していく。</p>		
貸出し件数	31回	変更なし
<p>大阪南部の自然を対象とした調査・研究は、大学等とも連携しながら進めているが、他の業務に比べ相対的に不十分な状態は続いている。調査・研究活動は博物館活動の基盤となるべきものであり、実施方法等に工夫を凝らしながら、少しでもその充実に努めていく。長期的な観点で進めているもので、短期間ですぐに結果が出るようなものではないが、少しでも調査・研究の充実につながるよう意識はし続けている。</p>		

	事業名	【令和3年度末時点】今後の方向性／実績数値
18	自然資料収集・整理保管事業	専門的知見を有する学生やアマチュア研究者等を積極的にアルバイトやボランティアとして活用することで、標本資料の整理やデータベース化を促進させる。収集方法を工夫することで、収集スペースの効率化を図る。
19	きしわだ自然友の会支援事業	子育てが一段落した比較的若い世代の一般会員から新しい人材を役員に迎え、運営の効率化、安定化を図るとともに、行事内容の質的向上と会員数の増加を目指す。
	会員数	135組

令和4年度の実施状況と課題		今後の方向性（変更の場合）
ボランティア等の協力を得ながら標本資料の整理とデータベース入力を進め、Web公開用標本データベース800件を整備した。データベースの入力数は毎年ほぼこの水準だが、とくに昆虫を中心に数万件に及ぶ未入力の標本資料があり、ペースアップを図るための方策が必要である。		変更なし
感染拡大の影響で停滞していた活動は回復傾向にあり、とくに野外で実施する行事には多くの参加があった。引き続き、運営に携わる新しい人材の割合を高め、活動の活性化を図っていく。		変更なし
会員数	134組	

令和4年度新規事業一覧表（追加分）

岸和田市生涯学習実施計画 事業シート【生涯学習課】

番号	担当課	事業名	事業概要	令和3年度実施状況（課題）	目標番号	今後の方向性
47	生涯学習課	通学路巡回パトロール事業	子ども達の登下校時の通学路における、安全確保・犯罪等抑止を図る。 会計年度任用職員（通学路巡回パトロール補助員）4名が従事している。	令和4年度から学校教育課より事業移管。	Ⅱ－①	学校とも連携し、より効果的な巡回を実施していく。
48	生涯学習課	小学校見守りボランティア事業	子ども達の登下校時に小学校の校門で校門開閉や来校者対応、見守りを行う。	令和4年度から学校管理課より事業移管。	Ⅱ－①	【26・子どもの安全見守り隊事業】と類似事業であることから、引き続き整理・集約できるところを検討していく。